

2 0 1 7 年度

事業報告

〔要約版〕

社会福祉法人麦の子会

目 次

2017年度の重点的な取り組み.....	3
I. 法人運営	8
II. 児童部門（幼児）	13
II 児童部門（学童）	24
IV 児童部門（生活支援）	34
V 成 人 部 門.....	38
VI 社会的養護部門.....	47
VII 医療・地域・相談部門.....	48

2017年度の重点的な取り組み

1. 存在が肯定される場所

【KeyWord】

○子ども達、障がいがある人達を支える場

・児童発達支援事業 ・放課後デイサービス ・生活介護事業 ・子ども食堂

○生活を支える場所

・グループホーム ・ファミリーホーム

○地域の職員、家族による活動

・初売りの会 ・おせち作り ・バレエ ・カーブス（フィットネスクラブ）

・黒岩、中小屋小学校キャンプ ・旅行 ・北九州スタディツアー ・カーペンター（春秋の衣替え作業）

地域で当たり前前に安心した生活を送るため、そして一人一人の生活が豊かになっていくために、日中活動から生活の支援、家族支援と、たくさんの職員、家族でさまざまな活動に取り組みました。

幼児期は母子関係において基本的信頼関係を軸に、お母さんとの関わり、遊び、生活を通じて子どもの自己主張を引き出すよう療育をおこないました。発達にあった療育を行えるよう、CSPを全職員が学び、教育法を行っていく事で肯定的な関わりが大きく増えました。それにより生活が安定してきた子ども達や利用者さんが目に見えて増えてきました。どのような社会スキルがその人に必要か考え、支援計画を立て活動に取り組み、社会スキルを覚えることで社会とのつながりを持つことができました。

不登校の子ども達には、学校や保護者と連携しつつ本人の気持ちに寄り添って支援することで、学校に通う事が増え、集団行動ができるようになりました。またハーベストガーデンの子ども食堂で夕食を毎日提供することにより、地域の方々の憩いの場となることが出来ました。

グループホームやファミリーホームの生活の場では、社会的養護の必要な子ども、愛着障がいや困り感の強い子ども、強度行動障害の方など、さまざまな人達が生活しています。チームアプローチによるCSPを用いることで、安定した暮らしに向けての取

り組みを行いました。

また家族や利用者さんが地域社会との関係を持つために、制度にはない支援も行ってきました。お正月は初売りの会を作り、職員、ファミリーホームの子ども達、グループホームの利用者さんで初売りに出かけています。普段出かけることが難しい利用者さんも、周りのサポートで楽しんで買い物していました。大型連休には、黒岩小学校に総勢200名でキャンプに行き、小学校を拠点に大沼公園散策やカヌー、海水浴を楽しみました。障がいのある人も無い人もみんなが肯定される居場所を作ってきました。

北九州のNPO法人抱樸に、高校3年生とその親でホームレス支援のボランティアに行って来ました。初めてのボランティア活動でみんな最初はぎこちなかったですが、奥田牧師と元ホームレスの方々と一緒に炊き出しや歌を歌うことで、一人一人が生きるという事を考えられて、素晴らしい経験ができました。

家族だけでは難しい事も、周りの支えで一緒に生活していく、強度行動障害があっても地域で生活していく。ミッションにある、『一人の子どもを育てるには、村中の大人の知恵と力と愛と笑顔が必要です。みんなで子どもを育てます。』『この地域に生きる全ての人が、安心して暮らし、一人一人を尊びその人らしく生きられる社会を創っていきます。』を具現化してきました。

2. 心を支え、心と向き合う

【KeyWord】

・「障害」に対する絶望 ・安全なグループ ・対話の場

・グループカウンセリング ・個別カウンセリング

・自助グループ（虐待、性虐待、ネグレクト、自死、発達障害、DV、宗教、母子家庭、重度の子ども

・トラウマワークショップ

・パパミーティング ・中高生ミーティング

生きにくさを抱え、対人関係で悩んでいる人が安全で安心な小グループで同じような体験を持つ人と出会うことは大きな力となります。

子どもに障がいがあって親の子どもの将来像がイメージできなくなってしまい、親は心身が疲弊し絶望してしまう事がしばしばあります。

障がいのある子どもを持つ親同士のグループでの対話が、人生を生き抜く覚悟やエネルギーの源となり、集団での体験をとおして、考え方、感情、行動を変えることができるようになり、パーソナリティの成長のきっかけとなり、困難に耐える力をつけて生き方を変えたりすることができるようになり

以上のことから、幼児の母親は年齢ごと、学童の母は学年ごとのグループカウンセリングを行っています。グループカウンセリングにはカウンセラーの他に先輩お母さんも出席して、共感と自己理解や他者理解の場となって、自己肯定感が高まっています。

また、集団に入れない方にはエンパワメントされるように、個別カウンセリングを行います。そしてグループカウンセリングに繋がります。

回復が進んで来たお母さん達は、自助グループで繋がります。

虐待、性虐待、ネグレクト、自死、発達障がい、DV、宗教、母子家庭、重度の子どもを持つ親の自助グループを行っています。

トラウマのワークショップにおいて、過去のトラウマの経験が、現在に悪影響を与えているとき、その記憶を再プロセスして、新しい健全なものが記憶されます。何度かワークショップで再プロセスしそのたびにトラウマの意味を変えて、健全なものとして、記憶に再保存していきます。安全で、安心出来る場所で、少人数の参加者と一緒に自分自身がトラウマを癒やしていきます。

虐待を受けた方が10回以上トラウマワークショップに参加し回復して、現在保育士の資格をとって、子どもと親を支援している例があります。

パパミーティングを毎週土曜日夜8時から行い、ペアレントトレーニングを初めに行い、その後グループカウンセリングを行っています。父親への心理面でサポートを大切にしています。

今年度からは中、高生に対しても1ヶ月に1度定期的にグループカウンセリングを行い、個別の必要な子どもには個別カウンセリングを行っています。思春期は自分と向き合う時期です。葛藤の多い時期に心理面のサポートは大切です。

以上のように、むぎのこでは心を支え、心と向き合うことを大切に心理面の支援を行っています。

3. 専門性と技術を高める

【Keyword】

CSP コンサルテーション 社会スキル SV体制 アレルギー対策
法人内研修 全国研修 海外研修（キューバ、フィンランド）
働き方改革

今まで、CSPを学び法人の中でCSPが共通言語となり、基礎を作ったところに、今年度は児童心理治療施設あゆみの丘副施設長堀先生をお招きし、コンサルテーションを7回行って頂きました。

CSPを基盤として、どのようにクラスを組織しチームで統一して子ども達に接していくかということ学びました。

具体的な内容としては、各クラス、チームでの統一したクラス運営の仕方、朝の会の手順書の作成、マネージャーが各クラスを観察してのスーパーバイズの仕方、関わりの難しい子ども達へのビデオコンサルテーション等でした。

また引き続き、職員（パート職員含む）全員がCSPの初級指導者となること目標とし、子ども達に統一した関わりが出来るようにしました。日々のスキルの向上には、朝の打ち合わせ後に、手順書に沿ったスキル練習と小グループになってのガイドブックを使用している短い講座を行うことにより、スキルの

習得とCSPを深めることに努めました。

更に初級指導者の中でクラスリーダーの職員には上級指導者の取得を目指し、成人の部門では堀先生からのアドバイスもあり、今回特にグループホームの主要な職員はCSPの管理者を目指すという取り組みを行いました。

職員の支援体制構築の為に、スーパービジョン体制を法人全体に構築し、職員には週1回、パート職員には2週に1回行うことにより、法人のミッションに沿った支援を隔々にまで浸透させること、そして現場の困り感を早い段階で吸い上げることで解決に導くことが出来るようにしていきました。

職員の質の向上として、CSPの社会スキル（指示に従う、許可を得る、助けを求める、いいえを受け入れる、落ち着く、人と話す等）を職員自身も身につけるように努力しました。

また、年度初めの法人研修の中では、マナー講座を

行い、服装等社会人として働く上での基本的なことを職員全員で確認しました。

家族支援としては、心理相談部のグループカウンセリングを軸に個人カウンセリング、課題別の自助グループ、カップルカウンセリング、パパの会等で保護者のメンタルヘルス支援を行うことで、子どもとの関係を安定できるようにと支援してきました。

また、他部署にまたがって支援をするケースに関しては、情報の収集やよりチームでのアプローチが必要ということで、子ども家庭ソーシャルワーク部門の高本部長を中心に家族支援会議を開催し、役割分担と手立てを明確にするアプローチをし家族を包括的にサポートしていきました。

職員研修は、最新の知識を学ぶということで、札幌市、道内、全国、そして国外まで足を伸ばし、職員が研鑽を積みました。また、内部研修も充実させ、特に武田心理部長による年間を通したシリーズでの

朝研修会を行うことで、研鑽を積むことが出来ました。

働き方改革として、ヘルス&セーフティ委員会を創設し、年休消化の奨励、効率的な仕事をするこでの、日々の退勤時間の調整。加えてメンタルヘルスに困難を抱えている職員に対しては、職員間のメンター制度でのサポートと元道立精神保健センター所長の田辺先生のスーパービジョンを受ける機会を設け、病院受診が必要となれば、同行するなどサポートしてきました。

またアレルギー食の対応にも力をいれました。年々アレルギー食対応の子が増え、そのアレルギーの内容が複雑化してきています。これは命に直結するため、マニュアルを読み合わせするだけではなく、実際にアレルギー食対応の手順書に従ってロールプレイを取り入れて各事業所で練習を行ない、確実に出来るように徹底をしました。

4. 組織を強化する

【KeyWord】

虐待防止 アンガーマネジメント マネージャー会議（56回開催） リスクマネジメント委員会
経営会議（1/W） 環境整備 交通事故対策

虐待防止委員会を年12回開催しました。各事業所絶対に虐待しないをモットーに虐待を未然に防ぐため、アンガーマネジメントを実践しました。離れる練習・逃げる練習を法人上げて行なう事で意識の高揚に努めました。

また、行動障がいの方々への特性に配慮し、絵カードなどの構造化を図りました。各事業所で、支援の難しい方やパニックになった方々の行動分析を行ない、(先行事象を把握、どの欲求なのか行動を分析、行動後の結果)記録を取り、援助計画作成し実行する事で、環境やその後の行動に変化をもたらし、本人が生活しやすい環境に配慮しました。

リスクマネジメント委員会を年12回開催。各事業所の事故報告・ヒヤリハット・ミスシートのリスクを分析、改善する事でみんなが安全に暮らせるよう、リスクのない職場をめざすため情報を共有化、ミスシートを使い声なき声を積極的に引だし、利用者、保護者とのコミュニケーションを行なう事で今年度もリスクの洗い出しを行いました。毎月の会議で各事業所のミス・事故をshelモデルで分析し、要因を探り再び事故が起こらないよう改善に務めました。

またグッドシングスシートを活用し職員の良い所探しを行なう事で、職員の士気も挙げる事が出来、

コミュニケーションも円滑に行なう事が出来ました。

環境整備委員会を年12回開催しました。環境整備を通じて、職場での仕事のやり方、考え方に気付き「選択する力」「決断する力」「行動する力」を身につけるよう、事業所ごとに担当を2人配置、月に1回決められた事業所を回り、整備が行きわたっていない部分についてチェックし、改善することで過ごしやすい環境整備に繋げる事が出来ました。

むぎのこカーペンターを年2回(春・秋)行う事で、年数を経た園舎もかがやきを取り戻す事が出来ています。

送迎部では、交通ルールを遵守し、「安全運転に努め事故ゼロを目指す」を目標に今年度も送迎を行いました。法人の理念として、多様な家庭環境、背景を持つすべての子ども、利用者の方々が安心安全に通えるよう心をこめ送迎を行ないました。育成・研修面では年2階の安全運転講習を実施し、技術を学び送迎での安全運転の意識を高める事ができました。また、事故時の対応についても、子ども利用者の安全確保、警察病院対応など、事故対応システムに添ってチームで迅速に対応することで、事故件数減少に至る要因となりました。

5. 経営の安定化に向けて

【KeyWord】

経営コンサルタント

会計監査人による監査のための予備調査

板垣会計事務所に会計のコンサルタントをしていただきました。予算管理を月次でより緻密に行っていくため、毎月最終週に毎月の予算に対する実績を検証していただきました。問題点を早期に把握できたため、し対策も早めにとることができました。会議の資料を作成するために毎月の会計入力の手切が設定されるため、より効率の良い業務やスケジュールの設定を行うことができました。

今年度は年間予算をほぼ均等に月次予算化しましたが、来年度はより実態に即した月次予算をたてることになっており、より現実と合った予算管理が可能になると見込んでいます。

平成31年度の会計監査人による監査が義務化されることを見越して、その予備調査を養和監査法人に行っていただきました。当法人も規模が年々大きくなり、組織運営の面でもより「内部統制」や責任の明確化が必要となってきます。今回の予備調査によ

り、様々な問題点を洗い出していただき、早速決済の流れを変更し、経理規程の見直しをおこなうことができました。

法人が小規模な時代から接ぎ木の形で大きくなった事務本部も、今後はより組織化された信頼度、正確性の高いものが要求されてきます。その意味でも大変意義のある予備調査となりました。

次年度はこの結果を基に改善を加え、また会計監査人による監査の導入や、内部統制制度に向けた準備を進めていきたいと考えています。

平成30年度の報酬改定により特に放課後等デイサービスの給付費収入の低下が懸念されました。事務方、マネージャーとの検討会議を何度も行い早期の対応に力を注ぎました。

6. 社会への貢献

【KeyWord】

自立支援協議会 ファミリーホーム協議会 CDSジャパン 日本知的障害福祉協会
里親会 幼稚園・保育園 大学 トラウマワーク養成講座 CSP養成講座
日本の子どもの未来を考える研究会

社会福祉法人の使命、福祉の役割として、して、地域全体、社会全体が住む人達にとってすみやすくなるための役割があります。みんなが幸せになるために以下のことに重点的に取り組みました。

札幌市では、自立支援協議会子ども部会の部会長を北川総合施設長がひきうけ、事務局長を金澤先生、また事務局員 東区子ども部会などに、参画して、障害のある子どもも、ない子どもも、家族も住みやすい地域づくりに貢献してきました。子ども部会の活動の中、札幌市子ども子育て委員を担い、教育と福祉のプロジェクト、社会的養護グループなどに、積極的に取り組んできました。里親会には、古家統括部長 ファミリーホームの竹内透さんが、理事として参加しています。

北海道では、発達障害推進のための委員 児童福祉審議会において、主に虐待検証の役割を担いました。

全国の取組としては、児童発達支援センター、障害児入所の代表として、日本知的障害福祉協会の児童発達支援部会長を北川総合施設長が務めました。特に、社会的養護の必要な子どもの家庭養護推進のために努力してきました。また、児童発達支援のガイドラインの委員となり、初めて障害児支援の方向性が示されることに、参加できました。

CDSでは、地域に住む障害のいる子どもや家族のために、何が必要か、報酬改定の事など厚労省とも、何度か話し合いました。ファミリーホームは、特に、里親の社会的役割の推進のための研修を、竹内さんと共に、全国で行うことができました。

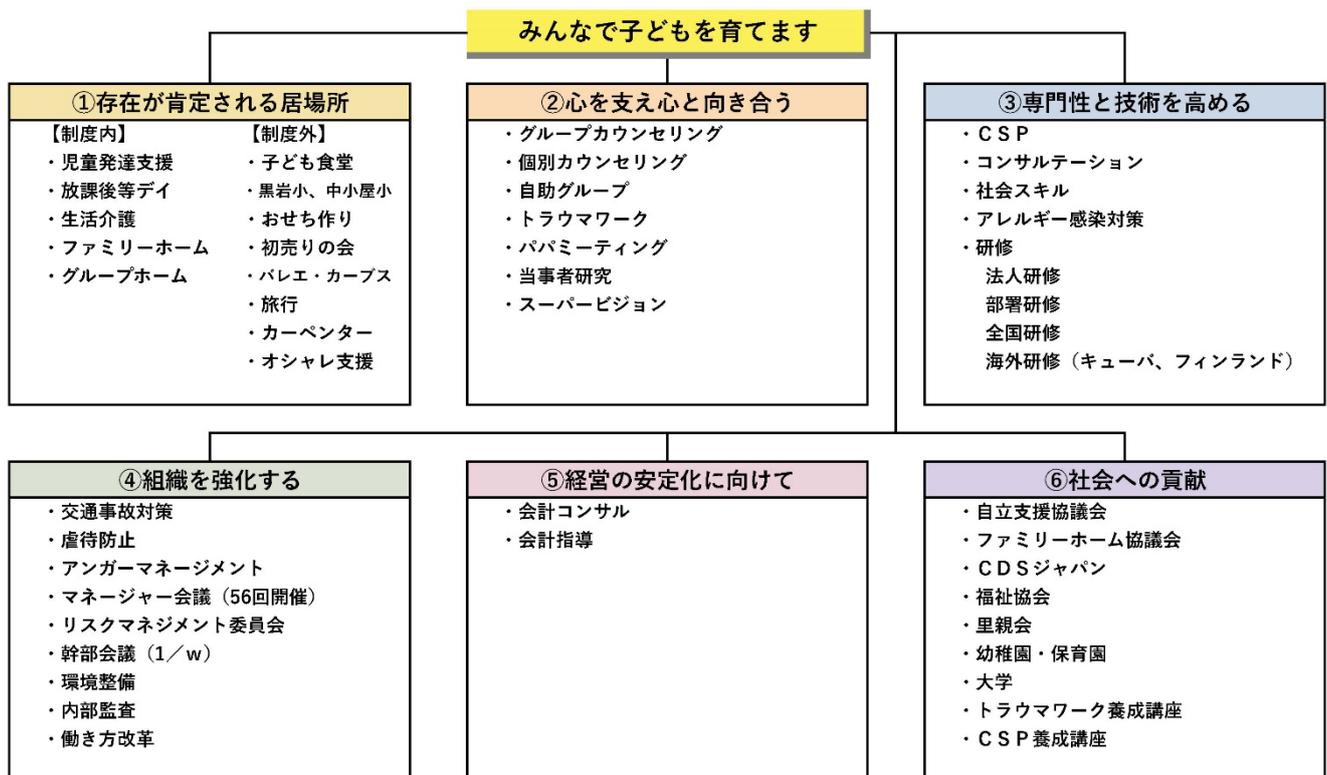
教育大学、医療大学、札幌学院大、保育専門学校などの、講義を引き受け、さらにむぎのこが蓄積した専門性を活かしてトラウマワークの養成講座開催。CSPの養成講座は、全道で、11回開催しました。

家族再統合のアメリカの進んだ取組を学ぶ会の主催者となり、社会的養護の未来を学ぶ事ができました。

2018年度は、日本財団の助成を得て、子どもの包括的支援のあり方を探る研究を、柏女霊峰先生はじめ、藤井評議員等全国の児童福祉の第一人者の方々が委員となっただき、大変豊かな研究会となり

ました。特に今年度は、全国の自治体を調査して、包括的支援を行うための方向性が、研究としてしめされました。実践をおこないました。フィンランドからの学びも大きく、国全体で、子どもを国の宝としての意識のなか、具体的に子どもを健全に育てるためのネウボラ等の施策、幼児期における障害児も含めたインクルーシブな支援のあり方など、今後の日本のありかたとして、大変有意義な研究となりました。日本財団に感謝いたします。

社会福祉法人麦の子会 2017年度の重点的な取り組み



I. 法人運営

1. 理事会・評議員会の開催及び監事監査の実施

(1) 役員構成

- ① 理事：田村 元（理事長）、長内慶一郎、宮脇一
北川聡子、古家好恵、木村瑞穂
- ② 監事：末永仁宏、向谷地生良
- ③ 評議員：尾崎祐一、金田光夫、田澤泰明、長谷川寛治、藤井康弘
光増昌久、山崎千恵美、

(2) 評議員会の開催

① 定時評議員会（2017年6月24日（土））

ア. 報告事項

- (1) 平成28年度事業報告

イ. 審議事項

- (1) 監事監査報告の件
- (2) 平成28年度計算書類承認の件
- (3) 理事及び監事選任の件
- (4) 役員等報酬規程改定の件
- (5) 定款変更の件

② 評議員会書面決議1（2017年9月21日（木））

ア. 決議事項

- (1) 議事録署名人について
- (2) 借入金の借り換え並びに担保提供の承認について

③ 評議員会書面決議2（2018年2月23日（金））

ア. 決議事項

- (1) 議事録署名人について
- (2) 基本財産の追加及び定款変更の件
- (3) ホワイトハウス 住居「カリブ」建設に係る独立行政法人福祉医療機構からの借入及び担保提供の件

(3) 理事会の開催

① 第1回臨時理事会（2017年4月1日（土））

ア. 審議事項

- (1) 任期満了及び理事変更に伴う理事長選任の件

② 第1回理事会（2017年5月29日（月））

ア. 報告事項

- 1) 事業報告 2) 業務報告 3) 理事長専決事項報告 4) 人事報告
- 5) その他

イ. 審議事項

- (1) 前回議事録承認の件
- (2) 平成28年度事業報告の件
- (3) 平成28年度会計報告の件
- (4) 監事監査報告の件
- (5) 新理事候補者選任の件
- (6) 定時評議員会日程の件
- (7) 定時評議員会議案の件
- (8) 会計コンサルタント業務契約の件
- (9) 国庫補助申請済グループホーム建設の件
- (10) サテライト（オリーブサテライトⅠ・Ⅱ）付設の件
- (11) ジャンプレッツ（就労移行支援）の工賃適正額検討の件
- (12) 経理規程変更の件

- (13) パートタイム就業規則及び給与規程一部
- (14) 運営規程変更及び重要事項説明書変更の件
- (15) 産業医契約書の件

③ 第2回臨時理事会（2017年6月24日（月））

ア. 審議事項

- (1) 理事長選任の件
- (2) 常務理事選任の件
- (3) 旅費規程改正の件
- (4) 七飯町における通所事業所開設の件
- (5) 七飯町における通所事業所開設に伴う
運営規程制定及び重要事項説明書制定の件
- (6) 共同生活援助事業所ホワイトハウス住居カリブ
創設整備事業に係る入札の件
- (7) 「プレイ」児童発達管理責任者の変更及び
それに伴う運営規程及び重要事項説明書変更の
- (8) 平成29年度理事会年間予定の件

④ 理事会書面決議1（2017年7月27日（木））

ア. 決議事項

- (1) 短期入所「ショートステイホームむぎのこ」大規模修繕（スプリンクラー整備）事業に係る入札について
- (2) 共同生活援助事業所「ホワイトハウス」「住居ダニエルの大規模修繕（スプリンクラー整備）事業に係る入札について

⑤ 第2回臨時理事会（2017年7月29日（金））

ア. 審議事項

- (1) 共同生活援助事業所「ホワイトハウス」（住居ホワイトハウス）大規模修繕（スプリンクラー整備）事業に係る入札結果承認の件

⑥ 理事会書面決議2（2017年9月1日（金））

ア. 決議事項

- (1) 借入金の借り換えについて
- (2) 共同生活援助事業所「ホワイトハウス」住居カリブ創設整備事業に係る入札の延期並びに再入札について

⑦ 第3回臨時理事会（2017年9月8日（金））

ア. 審議事項

- (1) 共同生活援助事業所「ホワイトハウス」住居ダニエル大規模修繕（スプリンクラー整備）事業 入札結果承認及び契約締結の件
- (2) 短期入所「ショートステイホームむぎのこ」大規模修繕（スプリンクラー整備）事業 入札結果承認及び契約締結の件
- (3) グループホームカリブ建設のための福祉医療機構に対する担保提供の件

⑧ 理事会書面決議3（2017年9月15日（金））

ア. 決議事項

- (1) 借入金金融機関変更に伴う担保提供の承認について

⑨ 第2回理事会（2017年9月22日（金））

ア. 報告事項

- 1) 事業報告 2) 臨時理事会報告 3) 理事長専決事項報告 4) 人事報告
- 5) 会計報告 6) 監事監査報告

イ. 審議事項

- (1) 前回議事録承認の件
- (2) むぎのこ合同ビル（仮称）仮契約締結の件
- (3) 新グループホーム（番号1709）用地購入及び建設契約の件
- (4) 経理規程改定の件
- (5) 給与規程改定の件

- (6) 育児・介護休業規程改定の件
- (7) 最低賃金改定に伴うパートタイム給与規程改定の件
- (8) 弔事内規改定の件
- (9) 見舞金内規制定の件
- (10) 運営規程変更及び重要事項説明書変更の件
- (11) 次回理事会日程の件

⑩ 第4回臨時理事会（2017年10月16日（月））

ア. 審議事項

- (1) 共同生活援助事業所「ホワイトハウス」住居カリブ創設整備事業入札結果承認及び契約締結の件

⑪ 第3回理事会（2017年12月22日（金））

ア. 報告事項

- 1) 事業報告 2) 臨時理事会報告 3) 理事長専決事項報告 4) 人事報告
- 5) 会計報告 6) 監事監査報告 専決事項報告

イ. 審議事項

- (1) 前回議事録承認の件
- (2) 会計監査人による任意監査実施の件
- (3) 臨時評議員会開催の件
- (4) 2017年度補正予算の件
- (5) 建設積立金並びに備品等購入積立金取崩の件
- (6) 福祉医療機構借入における保証人の件
- (7) 共同募金会助成申請の件
- (8) 就業規則一部改正の件
- (9) 次回理事会日程の件

⑫ 第5回臨時理事会（2018年1月11日（木））

ア. 審議事項

- (1) 生活介護事業「トリニティ」開設の件
- (2) 共同生活援助（グループホーム）増設及び短期入所開設の件
- (3) 放課後等デイサービス新設の件
- (4) 短期入所事業「ピース」合同ビルへの移転の件
- (5) 放課後等デイサービス「チェリーブロッサム」定員変更の件

⑬ 第4回理事会（2018年3月17日（土））

ア. 報告事項

- 1) 事業報告 2) 臨時理事会報告 3) 理事長専決事項報告 4) 人事報告
- 5) 会計報告 6) 監事監査報告 専決事項報告

イ. 審議事項

- (1) 前回議事録承認の件 【議案 1】
- (2) 2018年度事業計画の件 【議案 2】
- (3) 2017年度第2次補正予算の件 【議案 3】
- (4) 2018年度予算の件 【議案 4】
- (5) 「麦の子館」（合同ビル）本契約の件 【議案 5】
- (6) 「カリブ」基本財産追加と定款変更の件 【議案 6】
- (7) 資格取得補助規程制定の件 【議案 7】
- (8) 諸規程・諸規則改定の件 【議案 8】
- (9) 各事業所改廃の件 【議案 9】
- (10) 運営規程並びに重要事項説明書変更の件 【議案 10】
- (11) 職務専念の義務免除の件 【議案 11】
- (12) 当別町子ども発達支援センター専門職員指導業務委託に係る見積合わせ応諾の件
【議案 12】
- (13) 次回理事会日程の件

(4) 監査・指導の実施

実施者	監査実施日	監査項目
末永 仁宏 監事	①2017年 5月 25日 ②2017年 8月 25日 ③2017年 11月 8日 ④2018年 2月 2日	法人定款第11条の規定に基づき、2017年度事業に係る理事の業務執行の状況及び法人の財産の状況。
向谷地生良 監事	①2017年 5月 24日 ②2017年 9月 19日 ③2017年 12月 19日 ④2018年 3月 8日	法人定款第11条の規定に基づき、2017年度事業に係る理事の業務執行の状況及び法人の財産の状況。
札幌市 ・ 監査指導室 ・ 障がい福祉課 ・ 保健所	2017年 7月 4日・5日	・ 法人運営 ・ むぎのこ児童発達支援センター ・ ヨシア
札幌市 (集団指導)	2017年 12月 13日	障害者自立支援法・児童福祉法による全事業
札幌市児童相談所	2018年 2月 5日	・ ガブリエルホーム ・ ベーテルホーム

(5) 助成・補助金

受入事業所	交付団体等	助成・補助金内容	助成額
児童デイサービスむぎのこ	共同募金会	車いす対応昇降式洗面台 改修工事	550,000
ライオン	札幌市	防犯設備工事	2,835,000
ヨシア	札幌市	防犯設備工事	1,425,000
むぎのこ児童発達支援センター	札幌市	防犯設備工事	299,000
ホワイトハウス(ダニエル)	札幌市	スプリンクラー	1,217,000
ショートステイホームピース	札幌市	スプリンクラー	2,397,000
ホワイトハウス(カリブ)創設	札幌市	創設事業	33,300,000

(6) 主な施設・事業所整備事業

事業所名	工 事 名	請負業者	工事価格
ホワイトハウス (住居ダニエル)	大規模修繕(スプリンクラー整備)事業	(株)アスフル	4,449,600
短期入所ショートステイ ホームむぎのこ	大規模修繕(スプリンクラー整備)事業	(株)アスフル	4,892,400
ホワイトハウス(住居 カリブ)	住居カリブ創設整備事業	(株)丸竹竹田組	72,900,000

(7) 入札(一般・指名)執行状況

入札名	落札業者名	契約金額
共同生活援助事業所「ホワイトハウス」住居ダニエル大規模修繕(スプリンクラー整備)事業	(株)アスフル	1,593,000
短期入所ショートステイホームむぎのこ大規模修繕(スプリンクラー整備)事業	(株)アスフル	4,892,400
共同生活援助事業所「ホワイトハウス」住居カリブ創設整備事業	(株)丸竹竹田組	72,900,000

2. 事業運営

(1) 第2種社会福祉事業

- 1) 児童発達支援 むぎのこ児童発達支援センター
- 2) 保育所等訪問支援事業 むぎのこ児童発達支援センター
- 3) 児童発達支援 児童デイサービスむぎのこ
- 4) 放課後等デイサービス 児童デイサービスむぎのこ
- 5) 放課後等デイサービス 児童デイサービスジャンプレッツ
- 6) 児童発達支援事業 プレイ
- 7) 放課後等デイサービス プレイ
- 8) 児童発達支援事業 ヨシア

- 9) 放課後等デイサービス ヨシア
- 10) 児童発達支援事業 シーランチ
- 11) 放課後等デイサービス シーランチ
- 12) 児童発達支援事業 チェリーブロッサム
- 13) 放課後等デイサービス スカイブルー
- 14) 放課後等デイサービス 野の花
- 15) 放課後等デイサービス グリーン
- 16) 放課後等デイサービス チェリーブロッサム
- 17) 児童発達支援事業 セーボネス
- 18) 児童発達支援事業 ライオン
- 19) 放課後等デイサービス ライオン
- 20) 児童発達支援事業 スタディ
- 21) 児童発達支援事業 むぎのこ大通教室
- 22) 放課後等デイサービス むぎのこ大通教室
- 23) 児童発達支援事業 ライラック
- 24) 放課後等デイサービス ライラック
- 25) 児童発達支援事業 すてきなクジラ
- 26) 放課後等デイサービス すてきなクジラ
- 27) 生活介護 ジャンプレッツ
- 28) 就労移行支援 ジャンプレッツ
- 29) 生活介護 ハーベストガーデン
- 30) 短期入所 ショートステイホームピース
- 31) 短期入所 ショートステイホームむぎのこ
- 32) 居宅介護支援事業 むぎのこ
- 33) 重度訪問介護事業 むぎのこ
- 34) 行動援護事業 むぎのこ
- 35) 共同生活援助事業 ホワイトハウス
- 36) 小規模住居型児童養育事業 ガブリエルホーム
- 37) 小規模住居型児童養育事業 ベーテルホーム
- 38) 移動支援 むぎのこ
- 39) 一般相談支援 相談室セーボネス
- 40) 特定相談支援 相談室セーボネス
- 41) 障害児相談支援 相談室セーボネス
- 42) 特定相談支援 むぎのこ子ども相談室
- 43) 障害児相談支援 むぎのこ子ども相談室

(2) 公益事業

- 1) むぎのこ発達クリニック
- 2) 日中一時支援事業 むぎのこ
- 3) 日中一時支援事業 スタディ
- 4) 日中一時支援事業 ヨシア
- 5) 日中一時支援事業 セーボネス
- 6) 札幌市障がい児等療育支援事業
- 7) 札幌市障がい者相談支援事業
- 8) 当別町こども発達支援センター専門職員指導業務
- 9) 当別町こども発達支援センター発達支援専門員派遣業務
- 10) 認可外保育施設 セーボネス保育園
- 11) 企業主導型保育園事業 むぎのこ保育園

Ⅱ. 児童部門（幼児）

むぎのこ児童発達支援センター

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	53	53	55	54	53	52	54	54	55	54	55	56	54
北区	15	15	16	16	18	18	20	18	17	16	17	17	16.91
西区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
白石区	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0.5
豊平区	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1.33
中央区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
手稲区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
措置	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.17
計	74	74	76	75	75	74	77	75	75	73	75	76	74.91

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	1090	1227	1336	1279	1058	1264	1286	1309	1039	1224	1257	1322	14,691

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・発達支援プランは年2階(4月、10月)に作成した。
- ・遠城寺式・乳幼児分析的発達検査を用いて、アセスメントを行った。
- ・家庭訪問、面接の記録などで保護者にクラスに対しての意向、要望などの聞き取りを行った。
- ・個別支援計画を保護者に個別に説明し、同意を得た。
- ・半年間モニタリングを行い、評価した。

(2) 主な日中活動

- ・リズム、朝の会、散歩散歩、公園遊び(滑り台、ターザンロープ、水運び、水遊びなど)
- ・設定遊び(毛布ブランコ、布乗り遊び、王様、インディアン、音楽遊び)
- ・親子遊び(おんぶ遊び、わらべうた遊び、くすぐり遊び)
- ・山登り、アート(描画、季節の制作)、クッキング、プール、個別指導など

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	入園式、お誕生会、カーペンターズ、避難訓練
5月	家庭訪問、お誕生会、クッキング、避難訓練
6月	遠足、バザー、お誕生会、避難訓練
7月	お誕生会、海水浴、避難訓練、クッキング
8月	I期終業式、II期始業式、お誕生会、避難訓練
9月	運動会、お誕生会、避難訓練、クッキング
10月	遠足、お誕生会、避難訓練、カーペンター
11月	お誕生会、生活発表会、避難訓練、クッキング
12月	もちつき、お誕生会、避難訓練、クリスマス会、II期終業式
1月	III期始業式、お正月会、お誕生会、避難訓練、クッキング
2月	豆まき、お誕生会、避難訓練

3月	ひなまつり、卒園感謝会、お誕生会、卒園式、避難訓練、クッキング、終了式・離任式
----	---

7. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サービス管理責任者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
児童指導員	常勤	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
指導員	常勤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保育士	常勤	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7
保育士	非常勤	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
合計		30	30	30	30	30	29	29	29	29	29	29	29

8. 実習生・介護等体験の受入

受入学校名		実習期間	人数
実習生	札幌学院大学人文学部臨床心理学科	9月13日～9月17日	1人
	スポーツ&メディカル福祉専門学校	5月15日～5月21日 7月24日～8月4日	3人
	札幌医療秘書福祉専門学校	5月22日～6月3日 7月10日～7月24日	2人
	光塩学園短期大学	5月22日～6月9日	2人
	札幌こども専門学校	5月29日～6月9日 2月5日～2月16日	4人
	経専北海道専門学校	6月19日～7月4日 7月17日～8月2日	3人
	せいとく介護福祉専門学校	6月26日～7月14日	2人
	こども學舎	7月3日～7月15日	2人
	吉田学園	7月17日～8月2日	2人
	美芸専門学校	10月2日～10月16日	2人
大谷短期大学	2月19日～3月2日	2人	

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4月1日	むぎのこ	法人研修	32名
4月6日、 4月18日、4月20日、 5月11日 5月25日、6月8日 6月22日、7月7日、 7月27日 8月24日、8月30日、 9月14日、 10月12日、10月20 日、10月26日、11月9 日 11月30日 12月14日 12月16日 12月26日	むぎのこ	朝研修	32名

1月25日 2月8日 2月22日 3月8日			
5月9日	むぎのこ	送迎研修	名
5月13日、7月20日～ 22日、 8月10日 9月28日～29日 12月20～21日 1月18日	むぎのこ	コンサルテーション	5名
5月17日	むぎのこ	コモンセンスペアレンティング 初級講座	3名
6月17日	むぎのこ	秋野先生の性教育	16名
6月21日、10月18日	むぎのこ	わらべ歌	名
7月13日	むぎのこ	朝研修	16名
8月8日、9日	むぎのこ	中小屋セミナー	16名
1月20日	むぎのこ	コモンセンスペアレンティング 学齢期版	名
3月20日	むぎのこ	歌の歌い方研修	15名

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4月8日、9日		管理者研修受講候補者の事前検定	1名
4月19日～ 21日		コモンセンスペアレンティング(幼児版)管理者養成研修	1名
4月21日～ 22日		CSP指導者のためのリフレシャール研修、良好に家族支援のためのSV	2名
5月24日～ 25日		全道施設長セミナー	1名
6月20日		北海道療育園給食研修	1名
6月21～22日		北海道知的障がい関係支援員研修	1名
6月19日、 10月4日、 11月10日 12月8日	札幌市	児童発達支援研修会	名
7月3日～4日		相談支援従事者研修(前期)	1名
7月13日～ 14日		全国施設長管理者等研修会	1名
7月14日～ 16日		CDS職員研修	名
7月26日～ 28日		相談支援従事者研修(後期)	1名
7月28日		ニューパワー全体セミナー	3名
7月30日～ 8月1日		こしつじ文庫絵本セミナー	1名
8月3日		ブロック研修会	1名
8月5日～6日		CSP大阪管理者SV研修	1名
8月21日～ 23日		サービス管理責任者研修	1名
9月6日	札幌市	自立支援協議会子ども部会 社会的養護関係職員研修会	名
9月13、 19、29日	札幌市	子ども発達支援者支援力向上セミナー	1名
9月20日、 21日	札幌市	全道知的障がい関係職員研修大会	1名
11月7日～ 9日		サービス管理責任者研修	1名

12月2日～ 3日		虐待防止学会	1名
2月7日、 2月9日、 2月19日	札幌市	平成29年度 第2回 子ども発達支援者支援 力向上セミナー	1名
2月10日～ 11日		日本の未来を考える アメニティ	1名
3月12日～ 15日		行動援護従事者養成研修	3名

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
職員会議	毎月第1木曜	12回		管理者・児童発達支援管理責任者・児童指導員・保育士	16人	
クラス会議	毎週木曜（10月12日まで） 毎週月曜（10月16日から）	46回		児童発達支援管理責任者・児童指導員・保育士	32人	
ケースカンファレンス会議	毎週月曜（10月2日まで） 毎週木曜（10月19日から）	42回		児童発達支援管理責任者・児童指導員・保育士	16人	
個別支援計画作成会議	前期・後期	2回		児童発達支援管理責任者・児童指導員・保育士	16人	
管理者会議	月1回	12回		管理者	1人	
児発管会議	月1回	12回		児童発達支援管理責任者	1人	
倫理・コンプライアンス委員会	年3回	3回		児童発達支援管理責任者	1人	
安全対策・感染防止委員会	年3回	3回		児童発達支援管理責任者	1人	
苦情処理委員会	年3回	3回		児童発達支援管理責任者	1人	
リスクマネジメント会議	毎月第2水曜	12回		児童発達支援管理責任者	1人	

12. 評価と展望

- ・今年度も引き続き、療育ではコモンセンスペアレンティング、特に効果的な褒め方を重点的に行った。効果的な褒め方は、クラスでターゲットを決め褒める箇所を重点的に褒めて子どもの自己肯定感を高められるように行なっていった。職員のスキル練習、パートさんとのスキル練習を毎朝行う事で、現場で褒める回数が増えていった。
- ・年齢ごとにコモンセンスペアレンティングをお母さん向けに年3回行い、お母さん方への実践へも繋げた。ケースカンファレンスで応援計画を作成する事で、子どもとお母さん方のニーズ、支援方法が明確化され、振り返りをする事で今後の課題が分かりやすくなった。
- ・児童発達支援センターとして、地域の児童発達支援事業、保育園、幼稚園などとの研修を行い、参加する事で顔の見える繋がりが深くなってきた。
- ・書類整備では、内部監査を行っていたことで概ねクラスごとの書類はその場でチェックされるので監査を迎えた時に大きな混乱なく終えることが出来た。職員同士協力し合い行った。
- ・来年度も、引き続き、コモンセンスペアレンティングを更に深め、パートさんを含めた全職員で効果的な褒め方、ターゲットスキル、スキルブックを使う、効果的に取り入れていきます。

保育所等訪問支援

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
北区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
計	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計		1	3	1		1	2	1	1		1	1	12

12. 評価と展望

- ・アセスメントに基づき、客観的に訪問支援計画を作成した。
- ・訪問支援のニーズを把握し、訪問支援を実施した。
- ・ニーズに応じた、支援量の確保が困難。
- ・学校への保育所等訪問支援のニーズはあるが、人的保障が得られず対応は困難。

児童デイサービスむぎのこ (児童発達支援事業)

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	19	20	21	22	22	24	25	25	25	25	25	25	23.2
北区	9	9	9	10	10	10	10	10	10	10	10	12	9.9
西区	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1.5
中央区	3	3	2	2	2	2	2	2	3	3	4	4	2.7
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
措置	1	1	1	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2.2
計	35	36	36	39	39	41	42	42	43	43	44	46	40.5

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	210	270	301	286	234	274	285	292	257	279	280	297	3265

12. 評価と展望

- ・1・2歳児の混合クラスでそれぞれの年齢に合わせて保育を行なった。
- ・保育では、CSPの「育み」を大事にし、年齢や一人ひとりに合った効果的な褒め方を行なった。また職員も褒めることに慣れて自然と声掛けが出来るようになってきた。
- ・アレルギーの子供2名に対しては給食室と連携して行った。給食やクッキング等、職員は最新の注意を払い対応しミスはなかった。
- ・子どもや母の対応について困難な場合は、総合施設長、古家統括部長、マネージャーに相談し、解決に繋げていった。
- ・家族支援は、相談室、ヘルパー、ショートステイ、兄弟児の担任と連携し、解決に繋げていった。又、家族が利用している家族支援センターとも連携して支援ができた。
- ・書類については、内部監査に向け、職員で連携して揃えることができた。期日を守り、終わらせることができた。

- ・地域支援では、職員がプレ幼稚園の様子を聞き、幼稚園の様子を知り、理解を深め対応をしていった
- ・グループカウンセリング、CSPでは母も一緒に褒め方を練習して家庭でも出来たことを話してくれることが増えた。個別カウンセリングを受けて明るくなり、園でのボランティアに意欲的になった。
- ・後半子ども同士の関わりが多くなり、会話やごっこあそびで集中して楽しむことができた。
- ・職員・パート職員のCSPを使うことがスムーズになり、褒めること・落ち着いてから戻るなど適応行動が増えた。これからもCSP取り入れて、子どもをたくさん褒め、1・2歳児のクラスとして育みの中でも、たくさん可愛がって安心・安全な支援を行っていく。

児童デイサービスむぎのこ（重心）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

（単位 人）

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	5	5	6	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
中央区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
手稲区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	2.2
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	11	11	12	14	14	14	14	14	14	14	14	14	13.3

(2) 利用延べ人数

（単位 人）

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	79	104	124	118	107	130	131	131	106	125	116	115	1255

12. 評価と展望

- ・2017年度は、幼児3名と学童1名が加わった、14名の登録となった。14名のうち、4名は年間を通して利用が一回もなかった。定期的に登園していた10名のうち1名は、4月中ごろ～6月頭と3月末にかけてコードモックルにリハビリ入院（措置入院）したために、一時的に契約を切る動きがあった。5月より定員を7名から5名に戻した。利用児たちの体調が安定してきて長期入院する事もほとんどなくなり登園が安定してきたこともあり、利用率が100%以上になる月が多かった。
- ・2018年度に事業所が変わる動きがあるので、1年以上登園のない4名は契約を3月末で着る事になった。
- ・両親ともに働いている保護者も多いので、朝から日中一時支援も含め17時まで利用してる児も多かった。午前療育機関も午後まで利用する事も多かった。また、ショートステイとも連携し利用を勧めた。
- ・後半からは、誰にどのようなケアや視診などを誰が責任者として行っていくかをボードを用いて見える化した。
- ・年長児は特に、センターぞう組と連携しお泊り会、運動会、生活発表会等の行事やこいのぼり制作、卒園に向けてのリズムや描画・鬼のお面制作等に取り組むことが出来た。
- ・今後の展望としては、事業所が変わるので、クラスの構造化と多学年クラスなので他クラスとどのように連携していくか、また医療的ケア児のニーズが増えているのでどのようにクラスで安心・安全に対応していくかが課題である。

プレイ（児童発達支援事業）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

（単位 人）

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	15	15	15	15	15	16	16	16	17	17	18	18	16
北区	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

西区													
南区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
白石区									1	1	1	1	1
豊平区													
中央区													
手稲区													
措置													
計	21	21	21	21	21	22	22	22	24	24	25	25	22

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	217	282	282	250	234	267	286	292	213	257	247	282	3,109

12. 評価と展望

- ・4歳児グループで活動を行なった。発達支援では、CSPのSCELE,効果的な褒め方、予防的教育法を職員が取り組んでいくことで、子どもたちとの信頼関係の構築をおこない、また、実際に子どもたちは行動することが出来るようになっていった。
- ・職員の学びについては、毎朝のCSPのスキル練習を職員もパートさんとも行なうことでクラスの中で肯定的な声掛けが増えていた。
- ・運営面では、利用率は平均して安定していた。書類整備では、毎月の内部監査を行なうことで、毎月を意識して書類を完成させて、整備していくことが出来た。また、第3の視点でチェックすることで、間違いを発見し、訂正していくことが出来た。
- ・次年度へ向けて、今年度、事業所内相談支援を行なうことが少なかったことで、事業所内相談支援を計画的に行ない、家族支援の充実を図ることが挙げられる。

ヨシア（児童発達支援事業）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	10	10	10	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11.8
北区	4	4	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.2
西区													
南区													
白石区													
豊平区													
中央区													
手稲区													
措置													
計	14	14	13	14	14	14	14	14	14	14	14	14	13.9

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	192	215	225	221	183	216	220	218	181	206	174	218	2469

12. 評価と展望

- ・年長児童のクラスで、前年度から持ち上がりの児童、スタディから移動した児童、新入園児が合わさった構成だった。信頼関係の構築に時間が掛かる子もいたが、CSPを用いて適切な枠組みで支援が出来るようにクラスで話し合ったり、スーパーバイズを受けた。
- ・年長同士のクラスで一緒に活動をしたり、会議を行ない、クラスを超えて仲間として活動することや、

職員同士が連携することを大切にした。

- ・パート職員とスーパービジョンを行なう事で、コミュニケーションが取りやすくなり、細かい連携がとれた。
- ・研修にたくさん参加し、パート職員からも CSP の初任者研修を受ける事ができた。
- ・親子発達支援や、マネージャーの観察を通して、療育のアドバイスを受けた。
- ・書類整備は、毎月内部監査を行なう事で出来ている所、出来ていない所が明確になり、より正確に整備することができた。

シーランチ（児童発達支援事業）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	11	11	11	10	10	10	10	11	11	11	11	11	11.5
北区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
西区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
白石区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊平区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中央区	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0.5
手稲区	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.75
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
前年度	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	224	262	286	258	210	260	258	259	202	236	258	220	2933
前年度	242	231	283	275	174	247	272	240	220	233	262	231	2970

17. 評価と展望

- ・年長のクラスとして、CSP で予防的教育法を徹底して行うことで、クラス全体が 4、5 月には落ち着いて生活することが出来ていた。また、良い結果の設定も最小限にする事で効果が見られ、子ども達も日々意欲的に活動に参加している様子が見られていた。
- ・職員同士の連携の面で、連絡ミスが時々あった。子どもの対応やクラスでの配布物等、細かい部分まで職員同士話し、ミスのないよう支援することが必要であると感じた。
- ・パート職員は積極的に情報の共有に努めている所があるので、今後も同じように職員同士情報の共有に努めていく。
- ・子どもの発達に合わせて療育をする点で、子どもの課題を日々細かに話し合い、全員が一致した支援ができる事が多かった。
- ・子どもの対応に困った時には、職員同士声を掛け、職員も無理がない、子どもにも配慮した関わりを継続して行うことが出来ていた。
- ・保護者支援は積極的に行えた。保護者同士のトラブルがあるが、相談課や統括部長、総合施設長の助力を得て解決に繋がられた。

セーボネス（児童発達支援事業）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均

東区	13	15	15	16	17	17	14	14	14	14	14	15	14.8
北区	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4.8
西区													
南区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		0.91
白石区										1	1	1	0.25
豊平区													
中央区													
手稲区													
措置		1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1.5
計	18	21	22	23	25	25	22	22	23	23	23	23	22.5

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	116	168	215	212	192	247	237	237	195	249	237	265	214

12. 評価と展望

- ・年間を通してCSPを用いて療育を行った。
- ・4月当初、併用児クラスとして位置付けし、保育園や幼稚園と併用している子を対象とした結果・4月は登園率が低い。
- ・4月から、併用以外の子も受け入れる。
- ・併用利用の子が多い為、曜日で利用児の人数が違い、利用する子も曜日で違ってくるためにクラスも落ち着かない。
- ・契約児数が25名と多く、7月位から登園率も多くなる。
- ・1歳児～4歳児までの異年齢を受け入れ、発達段階にばらつきが多いため、その子その子に合わせた関わりを特に意識して療育を行った。
- ・対応が難しい母もいて、母対応を丁寧に行った。
- ・行事では、それぞれの年齢クラスとの連携が出来た。
- ・スーパービジョン体制で、職員・パートさんとの信頼関係や連携がとれ、一致して療育が出来た。
- ・朝の会の手順書に基づいて朝の会を行い、効果的に褒める事も頻繁に行なえた。
- ・制作では、発達に応じた作品をもとに、発達に応じた工程と介助を行った。
- ・書類整備では、日々の記録を日々整備し、毎月の内部監査で確認して揃えるようにした。
- ・今年度3回の親子発達で、園長・部長から療育に対してのアドバイスを受け、療育に活かす事が出来た。

スタディ（児童発達支援事業）

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	11	11	11	11	11	11	12	12	11	11	11	11	11.16
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
西区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
白石区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊平区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中央区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
手稲区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
措置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	13	13	13	13	13	13	14	14	13	13	13	13	13.16

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	199	240	273	240	202	261	259	261	195	234	230	257	2851

12. 評価と展望

- ・スタディは年中児のクラスで、療育ではCSPを取り入れていった。ポイント表で良い結果を用いたことで、子どもたちが意欲的に取り組み、適応行動をとる子どもが多く見られた。又、公園での集合等、様々な場面において予防的教育法を徹底して行うことで、子どもたちが理解しやすく、適応行動をとることができた。療育の中で、職員・パートさんが効果的な褒め方を頻繁に用い、子どもたちの適応行動を増やすことができた。
- ・安全のためのマニュアルに沿って実行し、大きな事故はなく子どもの安全を守ることができた。
- ・家族支援では事業所内相談支援を行い、保護者の精神面を支えていった。
- ・より良い支援が出来るよう、部下にSVを定期的に行い、コミュニケーションをとっていった。
- ・研修には積極的に参加し学んだり、資格取得をする職員もいた。
- ・書類の締め切りは守ることができた。
- ・事業所の安全面と防災面の管理をしていった。
- ・アレルギーのある子については、マニュアルに沿って対応し、子どもの命を守ることができた。
- ・感染防止についての研修を受け、法人全体の感染症流行状況を把握し、防止のための対策を行なった。

ライオン（児童発達支援事業）

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	10	10	10	12	14	17	17	17	17	16	16	16	14.3
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
西区													
南区													
白石区													
豊平区													
中央区													
手稲区													
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	12	12	12	14	16	19	19	19	19	18	18	18	196

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	163	182	207	212	184	260	258	262	224	255	236	264	2702

12. 評価と展望

- ・療育面では、ライオンぐみとしては、初めての年少のクラスとして療育を行った。また途中から、1歳児、2歳児の子どもが入園し、職員の関わりに戸惑いも見られたが、異年齢ということもあり、1、2歳児の子どもたちは、3歳児の子どもたちの真似をしたり、3歳児のお兄さんのようにやってみたくて泣いたり、3歳児の子どもたちも、1、2歳児の子どもたちのことを気にしたり、配慮をする面も見られたり、異年齢ならではの良い影響がみられた。
- ・1～3歳児のクラスなため、育みを基本とした療育で、効果的な褒め方で子どもたちを褒める関わりを中心に行った。また、基本的な2点間などをし、子どもたちが自分で移動したり、出来る事を増やせるように
- ・子どもたちの体幹がまだしっかりとしていないため、転ぶ事が多く、クリニック受診をすることが多くみられた。安全ばかりに気を取られてしまい、子どもたちが怪我をしないようすることばかりを考えてしまっていた。安全を守ることにばかりに気を取られてしまうと保守的・受動的になってしまい、遊びをリードしていくことが減ってしまうため、もっと大人が遊びをリードし、能動的に職員が動き、すばやく動くことを意識することで、怪我が減った。
- ・家族支援では、最初は母子通園が多かったが、次第に減り、単独通園が増えてきたこともあり、年度はもっと密に取るようにし、電話連絡や、事業所内相談支援でお母さんたちとの面談を行なうようにしたい。
- ・運営面では、書類整備は内部監査を目指して、書類整備を行っていることもあり、大きな混乱もなく、進める事が出来た。

むぎのこ大通教室

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	7	9	9	10	10	10	11	11	11	11	12	12	10.2
北区													
西区													
南区											1	1	0.1
白石区													
豊平区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		0.9
中央区	3	3	4	5	6	6	6	6	6	5	7	7	5.3
手稲区													
措置													
計	11	13	14	16	17	17	18	18	18	17	21	20	16.6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	103	160	191	190	153	198	203	214	179	207	225	212	

12. 評価と展望

- ・卒園児が出た為、最初の何カ月かは利用人数が少なかった。前もって計画を立てる必要があった。
- ・本体と離れているので、安全には常に気を付けて療育を行なった。大きな事故や怪我がなかった事は良かった。
- ・異年齢のクラスで、大変な面はあったが、年齢に合わせて療育を行う事ができた。
- ・送迎が遠距離になったので、送迎部との連携が必要だった。
- ・開所2年目なので、子どもたちが遊ぶ場所をいろいろと調べて、実際に行く事ができてよかった。

ライラック（児童発達支援事業）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	8	8	8	8	8	8	9	9	9	9	9	9	8.5
北区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
西区	1	1	1	1	1	1							0.5
南区													
白石区													
豊平区													
中央区													
手稲区													
措置	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1.5
計	13	13	13	13	13	13	14	14	14	14	14	14	13.5

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	170	189	203	203	162	211	198	201	175	204	188	175	2279

12. 評価と展望

- ・療育面では、年長のクラスとして、雑巾がけや給食当番などのお仕事活動を取り入れたり、制作ではクラスで一つの大きな鯉のぼりや雑巾縫い、跳び縄編みを行ない、お泊り会や運動会での壁登りや竹登りなどに挑戦する療育を行なった。また、男の子だけの活発な特色を活かして、日々の活動ではドッチボール、しっぽとり、山登りなどを行ったことで、仲間意識が芽生えて、秋ごろからは相手を応援する姿が見られるようになった。
- ・アタッチメントの弱さから、自信がない、自己肯定感が低い、問題行動で気を引くなどの子どもが多いクラスだったので、効果的な褒め方で子どもたちを褒める関わりを基本に、予防教育法を用いてどのような適応行動をすればよいかを教え、そうすることで自分の希望が叶う機会が増えることを結果として取り入れた。また問題行動が見られた時にはその行動を正したり、落ち着くスキルを教えて日々練習するなどの関りを行なった。
- ・多動や衝動性、注意力散漫などの行動があり、人や物にぶつかる事が多く、クリニックや歯科を受診することが多くみられた。子どもの行動を予測して、職員が予防的に安全に配慮した行動を繰り返し教えて練習することで改善が見られた。
- ・家族支援では、単独通園がほとんどだった為、保護者とは電話で連絡を取ったり、行事への参加を促し、必要に応じて相談室やクリニック、保健師と連携した。
- ・運営面では、書類整備は内部監査を目指して、書類整備を行っていることもあり、大きな混乱もなく、進める事が出来た。

すてきなクジラ（児童発達支援事業）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
計										2	1	3	2.0

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計										18	11	27	56

12. 評価と展望

【評価】

- ・半年間という短い期間で定員を満たすことが出来た。
- ・学校や保健所、児童相談所、相談員、その他函館・七飯・北斗の事業所との関係を築く事が出来た。
- ・利用していた人数が少なかつたため、活動が偏ってしまうことがあった。
- ・はるこどもクリニックとの連携する機会が少なかつた。

【次年度に向けての改善点】

- ・人数が増えるため、子どもたちが楽しく安心して過ごせる環境作りを行なう。
- ・子どもたちとの関わりのため、職員やパートとの連携を強め、今以上にCSPを意識して行なっていく。また、渡島で使用されているティーチプログラムも活用していく。
- ・はるこどもクリニックとの連携をし、クリニックの職員が見学を申し出てきたときは受け入れていく。
- ・運営面では、書類整備は内部監査を目指して、書類整備を行っていることもあり、大きな混乱もなく、進める事が出来た。

II 児童部門（学童）

児童デイサービスむぎのこ（放課後等サービス）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33
北区	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
西区													
南区													
白石区													
豊平区													
中央区													
手稲区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
措置													
計	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	200	256	303	287	242	247	277	283	244	262	261	262	3124

12. 評価と展望

- ・異学年のクラスということもあり、CSPをベースにした療育を行った。
- ・職員も毎日、CSPの効果的な褒め方、予防的教育法を練習し行い、職員がパートさんにも毎日スキル練習を行い、子ども達を褒めて自信につなげていく。
- ・障害が重たい子供たちが多いので安全に注意していきながらも発達に合わせて挑戦する。
- ・学校と連携をとり、2回養護学校の連携会議を行うことが出来た。
- ・活動は月ごとに、クッキング、製作等日常に時々変化をつけて設定し、子ども達が仲間と楽しむ活動を経験することが出来た。又、活動前には必ず予防的教育法、活動後は効果的に褒める事を行い、子どもたちが社会スキルを身につけることが出来るよう支援を行った。1対1でゆったりかかわるようにする。
- ・後半は研修に参加させてもらい、勉強することが出来た。又、園内研修や、園外研修など様々な研修に参加し、自分の専門性を広げていく事が出来た。

児童デイサービスジャンプレッツ（放課後等デイサービス）

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	14	16	16	16	15	15	15	15	15	15	15	15	15.2
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
西区													
南区													
白石区													
豊平区													
中央区													
手稲区													
措置	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
計	16	19	19	19	17	17	17	17	17	17	17	17	17.4

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	267	262	285	245	251	243	279	252	244	247	238	253	3066

12. 評価と展望

- ・今年度は小学3年生から中学3年生のグループで活動を行った。
- ・個別支援計画とCSPを、子ども一人一人の状態、発達・発育状況、障害程度や家族、家庭環境などに合わせて、ケースカンファレンスを行い、職員集団でどういった関わりを大切にすることを話し合いながら、CSPを使って関わる事を重視した。
- ・CSP 初級講座の研修に職員を2人、受講させることが出来た。CSP の講座を受講する事で、CSP を使える職員を増やし、関わる時の共通言語、共通ツールを増やすことで、子ども達の前向きな療育に励んだ。
- ・実際にCSPの効果的にほめる事、予防的教育法を使い、外出の際などに用いることで、社会スキルの向上を目指した。
- ・職員同士でSV体制を作り、そのSVを行いながら、FBや子どもへの関わり方など細かいところで職員の情報共有などを行う。
- ・年齢と発達の差がある子もいるので、その子ども一人一人に合った、甘えを受け止め、自己主張を引き出す事、また友達を意識して一緒に遊ぶ事を意識して療育を行っていった。
- ・給食では、偏食のある子、アレルギーのある子がいたので、十分に配慮し、法人で作られたアレルギー防止マニュアルに沿って、食事の提供を行う、対応を行った。偏食の子も改善が見られ、安全に給食を提供出来た。
- ・CSPは朝、定期的に行う事で職員の学びにつながり、療育の場面で生かすことが出来てきている。特に効果的なほめ方を行う事で子ども達の適応行動が少しずつ増えてきている。
- ・運営面では、利用率は平均して安定していた。書類面も毎月内部監査を行ったので、職員同士協力して整備する事が出来た。他の事業所の職員にチェックしてもらう事で、気づけなかったミスもチェックする事が出来た。
- ・発達支援のほか、相談課と連携し、保護者へのグループカウンセリング、CSP講座、個別カウンセリングや毎月の母親向けの学習会、毎週土曜日にむぎパパの会というパパ向けの学習会、グループカウンセリングなどの支援を行った。

プレイ（放課後等デイサービス）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	18	18	17.1
北区	7	7	7	7	7	7	7	7	8	8	8	8	7.3
西区													
南区													
白石区													
豊平区													
中央区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
手稲区													
措置													
計													
前年度	25	25	25	25	25	25	25	25	26	26	27	27	25.5

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	197	243	274	245	212	237	240	254	190	218	227	188	2725
前年度	234	216	262	264	174	231	271	246	212	232	228	206	2776

17. 評価と展望

- ・小学校3年生のクラスで、4月に始まった時は、学校でもクラス替えがあり、事業所も職員の顔ぶれも変わって、気持ちが不安定になる子ども達が多かったが、日常の活動の流れを変えずに行ったり、職員から明るく挨拶をすることなどを意識的に行うことで、職員も子ども達も徐々に慣れて落ち着く時間が増えていった。
- ・学習では、取り組むまでに時間がかかる児童もいたが、宿題をすることで自分にとってどのような良い結末があるのかを話したり、時間内に終わらせることができた時には、本児の好きな絵のぬりえがで

きるなどのよい結果を用いるなどして、励まして一緒に取り組むことで、自分から宿題に取り組む姿が見られるようになった。

・ミーティングの時は CSP のスキル練習を行うとともに、後半ではマインドフルネスも取り入れて、アドバイスを受け入れる、助けを求める、挨拶をする、落ち着くことを練習し、練習に参加したことを効果的に褒めたり、そのように行動することで、周りの人と楽しく過ごす時間が増えるかもしれないということも繰り返し伝えた。その結果、全員が練習に参加したり、マインドフルネスでは 5 分間静かに目を閉じて座って呼吸を整える時間をつくることができた。

・来年度も、職員はもちろん、パート職員も CSP の効果的な褒め方と予防的教育法を重点的に練習してスキルアップをし、子どもたちが家庭でも集団でも人と楽しく過ごす時間が増えるように関わっていく。

ライオン（放課後デイサービス）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	37	39	39	37	37	36	37	36	37	36	37	37	37.46
北区	7	6	6	4	4	4	3	2	2	2	2	2	3.6
西区	0												
南区	0												
白石区	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
豊平区	0												
中央区	0												
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	46	47	47	44	44	43	43	41	42	41	42	42	43.5

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	233	253	290	252	227	226	255	252	216	224	236	229	2893

12. 評価と展望

- ・1年生のクラスということもあり、CSP をベースにした療育を行った。
- ・職員も毎日、CSP の効果的な褒め方、予防的教育法を練習し行い、職員がパートさんにも毎日スキル練習を行い、子ども達を褒める習慣ができています。
- ・クラスの子どもの達の発達にばらつきがあったが、年長児から行われている適応行動をとった時に効果的に褒める、スキルブックを作成して視覚支援を行うことで、発達に関わらず、適応行動が増える様子が見られた。又、後期はお母さんたちとも沢山話し、支援の個別化（ショートステイホーム、ホームヘルプサービスの利用も含め）を行う事が出来た。
- ・学校と連携をとり、登校支援を行うことが出来た。
- ・活動は月ごとに、クッキング、製作等日常に時々変化をつけて設定し、子ども達が仲間と楽しむ活動を経験することが出来た。又、活動前には必ず予防的教育法、活動後は効果的に褒める事を行い、子どもたちが社会スキルを身につけることが出来るよう支援を行った。
- ・児童虐待防止学会、児童発達支援管理責任者研修など実りの多い研修に参加させてもらい、勉強する事が出来た。

ヨシア（放課後等デイサービス）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
------	----	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---	----

東区	29	29	29	29	29	29	29	29	30	30	30	31	29.4
北区	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
西区													
南区													
白石区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
豊平区													
中央区													
手稲区													
措置													
計	36	36	36	36	36	36	36	36	37	37	37	38	36.4

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	350	424	448	421	358	392	426	414	311	374	370	385	4673

12. 評価と展望

- ・小学校2年生のクラスとして活動を行った。前年度からの持ち上がりということもあり子どもたちの不安や戸惑いの様子はあまり見られなかった。学校の学習プリントの難易度が上がったこともあり1人1人の個別課題の時間が長くなってきたので大人が見守りながらも子ども自身が出来たという達成感を持てるように回答を教えながら声かけを行った。
- ・登録人数が多いので子どもたちの意見を取り入れながらグループ分けをして活動を行った。天気の良い日は戸外活動を中心に行った。
- ・ミーティングの中でCSPの予防的教育法のスキル練習を行った。最初は恥ずかしさから抵抗する子どももいたが、繰り返し行うことで練習場面だけではなく実際の場面でも使うことが増えてきたので子ども達を褒める機会をたくさん作るきっかけとなった。
- ・パート職員と個別のスキル練習や打ち合わせ、振り返りを行うことで活動中にあったことを共有する時間が出来たのが良かったので継続して行っていきたい。
- ・発達支援プランは年2回作成し、子どもの年齢や発達に合わせて社会スキルを身に付けられるように支援を行った。また、保護者のニーズに合わせてショートステイやヘルパー、相談室、学校など関係機関と連携して支援を行うことが出来た。
- ・運営面では日々の利用人数に差はあったが1年間を通して安定した人数が登園していた。書類面では毎月内部監査を行ったので、職員同士協力して整備する事が出来、また、他の職員にチェックしてもらう事で、気づかなかったミスもチェックする事が出来た。
- ・次年度は3年生のクラスになる。継続して子どもたちの発達に合った学習課題や集団活動などを設定し、学校や家以外の居場所となるようなクラス作りを行っていきたい。また、学校支援など関係機関と連携し、チームで子どもや家族を支えていきたい。

シーランチ（放課後等デイサービス）

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	9	9	9	9	9	9	10	10	10	10	10	10	9.5
北区	13	13	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12.5
西区													
南区													
白石区													
豊平区													
中央区													
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
措置													
計	23	23	23	23	23	23	24	23	23	23	23	23	23

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	188	239	252	239	211	238	238	238	185	207	198	215	2648

12. 評価と展望

- ・多学年の子どもが通い、発達の違いもあったが、肯定的に関わって行く事を大切に構造化を意識して療育を行なってきた。
- ・新入学の子どもも当初は落ち着かない様子等も見られていたが、帰って来てからの一日の流れを一定にし、見通しを持てる様配慮していく事で、理解し落ち着くことが出来ていた。
- ・他事業所との交流も多く、特に夏・冬休みの長期休みに交流して療育を行なう事で遊びや関係が広がって行き、様々な活動を行なうことが出来た。
- ・C S Pでは、スキルブックを作成し、社会スキルの練習を行なう際に視覚化出来たことで後半は子どもがスキル練習に集中して取り組む事ができ、行動に移すことが出来るようになってきていたため、引き続き継続して行なっていくことが重要である。
- ・活動はプラ板制作やクッキング等、日常に時々変化をつけて設定することで、子ども達全体が楽しんで活動に参加する事ができていた。
- ・今後は、職員の立ち位置や関わり方、構造化を意識していきながら活動を組み立てていくことや2点間を意識して関わるように心がける。
- ・設定遊びの中で関わりのある遊びを取り入れていき、お友達同士の関わりや、やりとりする機会を設けていき、一人一人に合わせた目標を設定して実践していく。

チェリーブLOSSAM（放課後等デイサービス）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	31	32	33	33	33	33	32	33	34	34	34	34	33
北区	7	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7.9
西区													
南区													
白石区													
豊平区		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.9
中央区	1	1	1	1	1							1	0.5
手稲区	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1.4
措置													
計	42	44	45	45	45	43	42	43	44	44	44	44	43.6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	342	329	415	394	312	355	410	397	339	325	365	239	4222

12. 評価と展望

- ・中・高校生の事業所として療育を行った。前年度から持ちあがりの子が多く、落ち着いている子が多かった。その中で、4月から新しく契約した子や高校に入学したが特別に支援が必要な子など、落ち着くのが難しい子もいたため、その都度個別で対応を行った。
- ・不登校の支援があるため、午前中から英、国、数を中心とした学習を行った。個々の学力にばらつきが大きい為難しい面もあったが、発達に合った学習を行なう事が出来た。
- ・特に冬場には、除雪などの奉仕活動を積極的に行った。
- ・中学校3年生の子を中心に、週に一回の個別面談を行うことで、進路などへの不安の聞き取りや社会スキルの練習などを行うことができた。
- ・朝の会にスキルブックを用いてのスキル練習を取り入れることで、毎日の練習を行なう事ができた。
- ・今後は、思春期に入り様々な感情の葛藤や揺れが出てくる子どもたちの支援が続いて行くので、子どもたちの様々な感情の揺れをクラス職員が受け止めつつ、その後の高校進学などに向けて少しでも社会スキルの獲得や自己肯定感を高められるように関わっていく必要がある。

スカイブルー（放課後等デイサービス）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	36	38	38	38	38	38	37	37	37	37	39	39	34.4
北区	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	0.5
西区													
南区													
白石区													
豊平区													
中央区													
手稲区													
石狩	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
措置													
計	43	45	45	45	45	45	44	44	44	44	46	46	40.9

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	416	471	506	398	344	451	498	436	363	374	403	379	5039

12. 評価と展望

- ・スカイブルーは小学校1年生から中学1年生までの多学年が利用契約しているため、朝の会や設定活動を発達や学年でグループ分けをし子ども達が自分らしく活動出来るように計画し行なった。多学年ということが子ども達が自分らしく活動しながらも意見がぶつかった時には適切に意見を言ったり、協力して掃除や設定遊びを行なう事が出来ていた。
- ・半数以上が不登校の為、授業参加、学校の行事練習や当日のサポートを子どもに合わせ保護者と学校と連携し行なったため子どもたちが明るく見通しを持って登校する事が出来ていた。
- ・コモンセンスの効果的な褒め方を中心に予防的教育法、問題行動を正すを取り入れ療育を行なった。職員同士も朝の打ち合わせ後に練習し子どもたちがすでに出来ていること、ターゲットスキルを中心に効果的な褒め方を多く行えるように取り組んだ。
- ・次年度は、今年度よりも学習時間、内容の見直しをする事で充実させていきたい。また、見学学習などを多く取り入れていく。
- ・家庭で子ども達が安心して過ごす事が出来るように保護者への個別のコモンセンスのセッションを行なう。

トゥモロー（放課後等デイサービス）

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	14	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
西区													
南区													
白石区													
豊平区													
中央区													
手稲区													
措置													

計	16	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	218	251	267	245	213	246	279	251	212	238	230	257	2907

12. 評価と展望

- ・お母さんグルカンを1回しか開かなかった。お母さん同士の貴重な場であるので来年度は定期的開催したい。
- ・パニックが多い子どもが何人かいて、対応困難な時はヘルプを頼んだりアドバイスをもらったり相談しながら模索して対応してなんとか統一した対応で子どもが落ち着いた。
- ・部屋からこどもが出てしまう、アレルギーの子どもが食べてしまったり等のヒヤリハットがおおかったため、その都度対策を検討して行った。今後職員間で連携を行ない事故やヒヤリハットを起こさないように対策する。
- ・札幌市の監査対象になり、様々な事業所や職員に協力してもらい、書類整備や環境整備を行った。日ごろから内部監査で書類を仕上げていることもあり、大きな混乱もなく、進めていくことが出来た。

グリーン (放課後等デイサービス)

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	37	36	35	35	35	34	34	34	33	33	33	33	34.3
北区	12	12	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	12.8
西区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
白石区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊平区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中央区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
手稲区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
措置	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	52	51	51	51	51	50	50	50	49	49	49	49	50.1

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	426	493	514	479	404	432	434	429	340	429	360	368	5108

12. 評価と展望

- ・小学校3年生・4年生の異年齢のクラスとしてスタートした。初めは、それぞれ持ち上がりの職員もいたものの、新しい場所での活動だったため、活動の流れや構造の違いから、職員も子どもたちも戸惑いが見られた。すぐに時間と環境の構造化を練り直し、一日のスケジュールを作った。
- ・登録人数が多く、身体を動かしたい子とゆったり過ごしたい子をすみ分けるために、グループ分けを行って活動をした。
- ・毎日ミーティングを行い、その中で子どもたちへスキル練習を行った。初めは、照れや不慣れなために拒否をしていたが、毎日繰り返し取り組んでいる事で、テキパキと練習に取り組むように変化した。また、後半からスキルブックを使ったステップを意識した練習を行うと、数回で暗記して全てステップ通りにできる子が多く出ていた。
- ・パート職員に対しても出勤時に一日の打ち合わせとスキル練習をセットで行うことで、一日の流れの確認とどこを強めるために褒めるかを確認できた。一日の終わりにどうだったか振り返りを行うことで、パート職員の視点のからの発見があったりと、子どもたちの理解に役立った。
- ・学習面は、勉強についていけない子とそうでない子の差が激しく、学習に充てる時間にかかなりの差

が生まれていた。問題を理解する事が難しい子には、個別に職員がついて指導を行ない、回答を伝えながら、一緒に書き込んで達成感を得られるように支援した。

- ・運営面では、曜日で人数のばらつきこそあったものの、月単位では大きな変動は無く安定した利用率であった。各書類は毎月の内部監査を目標に、全職員で整備することができ、毎回期限内に作成・整理することができた。実際に作成していない他クラスの職員に目を通してもらうことで、見落としていたミスも発見でき、正す事ができた。

- ・次年度は、子どもたちが高学年になるので、学習もどんどんと難しくなってくる、またクラブや委員会などで下校時間自体が遅くなる事が予想されるので、短い限られた時間の中で、学習以外にも有意義な活動を行えるクラスを作っていきたい。

野の花（放課後等デイサービス）

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	20	20	20	20	20	19	19	19	19	19	19	19	19
北区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
西区													
南区													
白石区													
豊平区													
中央区													
手稲区													
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	22	22	22	22	22	21	21	21	21	21	21	21	21

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	218	250	271	241	203	242	262	241	183	231	221	230	2793

12. 評価と展望

- ・職員が継続して利用者に関係づくりを行い子ども達の中に社会スキルが定着出来た。
- ・関わりが難しい特定の子にチームでアプローチする事が出来た。
- ・出来た事を褒める事で子ども達の中で自己肯定感や自信がつく事が出来た。

野の花〔第3単位〕（放課後等デイサービス）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	41	41	40	40	40	40	41	41	41	41	41	43	40.8
北区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1.1
西区													
南区													
白石区													
豊平区													
中央区													
手稲区													
措置													

計	42	42	41	41	41	41	41	42	42	42	42	45	41.8
---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	------

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	213	256	243	231	204	204	229	264	270	265	298	322	2999

12. 評価と展望

- ・クラスの枠組みを意識して取り組むことを始めた。構造化や環境整備を意識し取り組んでいく。
- ・学習で、自己肯定感、自己効力感を育むために、本人にあった努力で、本人に合った成果を得られるように、励まして、支援を行なう。
- ・勉強の事業所ではあるが、塾ではないので、こちらから過度に進学を勧めない。
- ・C S Pの「指示に従う」「許可を得る」などの社会スキルは職員も意識して取り組む。

ライラック（放課後等デイサービス）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	18	20	20	20	21	21	21	21	20	20	20	20	20.1
北区	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
西区													
南区													
白石区													
豊平区													
中央区													
手稲区													
措置													
計	28	30	30	30	31	31	31	31	30	30	30	30	30.1

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	197	245	272	210	214	207	237	237	191	226	200	195	2631

12. 評価と展望

- ・5年生の事業所として療育を行なった。職員の入替えがあり、途中子ども達も落ち着かない様子になったが、すぐに落ち着き活動を行なうことが出来た。
- ・友達同士の関わりを、5年生として集団で過ごすことが出来るように促す関わりを持つことが出来た。
- ・発達支援プランに沿って、年齢相応に社会スキルを身に付けられるように支援出来た。難しい社会スキルは後期の場面で見直す等、子どもの発達に合わせた支援が出来た。
- ・保護者のニーズに合わせてショートステイホームやホームヘルプサービス・学校等と連携をして支援出来たケースがあった。
- ・スキルブックを作成し、社会スキルの練習を行なう際に視覚化出来たことで、後期の後半は子どもがスキル練習に集中して取り組む事ができるようになった。
- ・活動はプラ板制作やクッキング等、日常に時々変化をつけて設定することで、子ども達全体が楽しんで活動に参加する事ができていた。
- ・今後は小学校の最高学年として、子ども達も不安やストレスを抱え過ぎることが増えてくると予想される為、職員も連携して子どもの気持ちを受け止めていき、安心できる事業所であるよう努めていく事が大切である。

すてきなクジラ（放課後等デイサービス）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
計						4	4	4	4	6	6	6	5.7

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計						47	56	57	50	59	86	78	433

12. 評価と展望

【評価】

- ・半年間という短い期間で定員を満たすことが出来た。
- ・学校や保健所、児童相談所、相談員、その他函館・七飯・北斗の事業所との関係を築く事が出来た。
- ・利用していた人数が少なかったため、活動が偏ってしまうことがあった。
- ・はるこどもクリニックとの連携する機会が少なかった。

【次年度に向けての改善点】

- ・人数が増えるため、子どもたちが楽しく安心して過ごせる環境作りを行なう。
- ・子どもたちとの関わりのため、職員やパートとの連携を強め、今以上にCSPを意識して行なっていく。
- また、渡島で使用されているティーチプログラムも活用していく。
- ・はるこどもクリニックとの連携をし、クリニックの職員が見学を申し出てきたときは受け入れていく。
- ・運営面では、書類整備は内部監査を目指して、書類整備を行っていることもあり、大きな混乱もなく、進める事が出来た。

IV 児童部門（生活支援）

日中一時支援事業むぎのこ

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
合計	84	80	85	88	86	91	88	85	83	86	103	90	87.4
前年度	64	70	87	90	82	83	85	84	90	88	118	91	83.6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	842	853	1022	940	820	1015	1004	933	757	913	952	846	10897
前年度	562	631	869	835	805	921	993	1055	811	956	1091	906	10435

日中一時支援事業ヨシア

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
合計	19	19	17	16	17	17	17	17	17	17	17	18	18.6
前年度	20	20	18	19	18	18	19	19	19	18	18	18	18.6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	265	299	268	242	177	251	282	258	213	185	248	212	2900
前年度	290	324	356	295	220	316	314	309	242	254	329	271	3520

日中一時支援事業スタディ

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
計	17	17	15	16	15	19	18	19	17	18	16	16	16.9
前年度	23	23	24	25	25	23	23	24	23	26	27	25	24.3

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	148	158	174	184	154	189	208	189	167	182	181	160	2094
前年度	225	239	281	291	245	294	278	291	217	304	312	266	3243

日中一時支援事業 セーブネス

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
合計	37	37	39	36	40	40	41	41	39	42	43	42	40.0
前年度	37	32	32	36	35	34	35	39	39	39	40	41	36.7

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	367	419	488	424	373	467	479	440	373	425	419	395	5069
前年度	380	351	435	417	365	398	410	444	326	421	448	391	4786

ショートステイホームむぎのこ

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	86	93	97	103	106	107	113	114	120	123	128	130	110
北区	26	28	32	32	34	34	35	35	36	37	37	37	33.6
西区	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	4	4	2.7
南区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
白石区	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0.3
豊平区	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0.3
中央区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2.2
手稲区	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	4.6
千歳市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
措置	1	2	2	2	2	3	3	3	3	3	6	6	3
計	124	134	142	148	153	156	164	165	174	178	188	190	159.7

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	106	115	223	225	205	205	227	219	202	206	229	295	2457

12. 評価と展望

- ・年間を通してCSPを用い、職員も毎日スキル練習を行い子ども達とかかわった。
- ・5月末からショートピースが移転準備での定員減に伴い、ショートむぎの定員を4名から8名に増やした。職員の入れ替わりもあったが、安心・安全を心掛け、協力して対応できた。
- ・スーパービジョン体制で、職員やパートさんとのコミュニケーションがよりとれるようになった。
- ・利用者の年齢が2歳から18歳までと幅広く、自立している子どもだけでなく、ニーズに応じて個室対応を行い、安全に配慮した。
- ・2月から児童相談所の一時保護委託を受け入れ、必要に応じて支援会議を行ってクラスとも連携してCSPを用いたり、外部機関との連携会議に出席して情報を共有して対応した。
- ・次年度も引き続き児童相談所からの一時保護委託の受け入れが予想されるため、職員のコミュニケーションをはかり、他部門や他機関とも連携していく。

ショートステイホームピース

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	131	131	131	134	136	138	141	141	145	145	146	147	139
北区	33	33	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
西区	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	4.5
南区													
白石区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
豊平区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
中央区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
手稲区						1	1	1	1	1	1	1	0.5
措置	4	4	4	4	4	4	6	6	6	6	6	6	5
計	180	180	182	185	187	190	194	194	198	199	200	200	191

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	3	270	146	164	140	137	134	136	117	128	134	120	1935

	0												
	9												

12. 評価と展望

- ・スプリンクラー設置のため建て替え工事が行われ、その間麻生町に移転となった。定員も12名から6名となり、移動に時間がかかったが少人数で落ち着いて過ごす事が出来た。
- ・CSPを積極的に取り入れ、効果的に褒める関わりが習慣となった。また、アンガーマネジメントの逃げる練習と助けを求める練習を毎日行い虐待防止に努めた。
- ・関わりが難しい子どもに関してはその都度支援会議を行い、クラス担任等と連携してチームで支援する事が出来た。
- ・次年度はむぎのこ館への移動で定員も12名に戻り、安心・安全を守りながら、きめ細かな支援を目指していく。

むぎのこ保育園

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
北区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
西区													
南区													
白石区													
豊平区													
中央区													
手稲区													
措置													
計	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	322	397	425	375	322	392	403	390	328	356	363	341	4414

12. 評価と展望

- ・企業主導型保育事業として、二年目を迎えて定員20名に増えている。0歳から三歳児が在園している。
- ・日誌・日報・連絡ノートの管理整備や入園時健康診断、毎日の視診・毎月の身体測定等を行いました。
- ・さらに乳幼児の安全管理の為睡眠チェックなど細かな対応をしている。児童の利用人数に合わせた職員配置やアレルギー食に対する個別対応なども行い児童の安全に配慮出来たと思います。
- ・乳幼児にはわらべ歌遊び、抱っこ遊び SCALE を大切に關われました。
- ・これまでの母子通の兄弟児童だけではなく、地域の児童の受け入れ利用も行っています。他事業所との交流や、保育園の屋外遊技場としてのテラスを利用して毎日楽しく過ごせるように遊びの工夫をしている。
- ・給食では、アレルギー食の確認・偏食の児童には、食べられる物で対応しました
- ・新年度も母子通の兄弟児や地域の子ども達や職員の子ども達が自分らしく安心して過ごせて、保護者の方もきめ細やかな対応をして、安心して預けられる保育園をします。
- ・建物が新しくなり、定員も増えてクラスも増えていくので工夫した遊びや SCALE, 効果的な褒め方、予防的教育法を積極的に取り組んでいく。
- ・職員はSV体制を確立して質の良い保育を目指し、積極的に研修に参加していく。
- ・書類等については内部監査チェックにより毎月確認していく。

V 成人部門

ジャンプレッツ（生活介護）

1. 事業所利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	36	36	37	37	38	38	38	38	37	37	37	37	37.2
北区	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
西区	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
清田区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
厚別区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
手稲区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
江別市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
措置	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0.7
計	52	52	53	53	55	55	55	55	54	54	54	54	53.8

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	934	979	1069	991	934	1020	1054	1012	969	951	959	1114	11986

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・17年度の個別支援計画は16年度終了評価で利用者本人、保護者同席のもと面談。それを基に検討会議を行い、個別支援計画を策定。その後利用者、保護者同席のもと17年度個別支援計画を説明し、同意を得る（9月も同様に後期個別支援計画を行なった。）

(2) 主な日中活動

- ・作業活動（畑作業・洗車作業・室内清掃、施設外清掃・除雪作業・ビーズ作業・ペンキ）そして3つのグループ（ペンキグループ・キッチンガーデニンググループ・ガーデニンググループ）に分かれ活動を行なった。
- ・スポーツ活動（プール・ソフトボール・ソフトバレー・クロスカントリー・卓球・スケート・サッカー等）
- ・レクリエーション（ボウリング・カラオケ・ショッピング・フットケア・ハンドケア等）
- ・サークル活動（英会話、茶道、フラダンス、太極拳、映画・ヨガ）
- ・行事（キャンプ・1泊旅行・フルーツ狩り・スポーツ大会・バザーなど）

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	英会話・フラダンス・太極拳・入所式
5月	英会話・フラダンス・太極拳・お花見
6月	英会話・フラダンス・太極拳・いちご狩り
7月	英会話・フラダンス・太極拳・海水浴
8月	英会話・フラダンス・太極拳・キャンプ（中小屋小学校）
9月	英会話・フラダンス・太極拳・キャンプ（中小屋小学校）
10月	英会話・フラダンス・太極拳・バザー・スポーツ大会
11月	英会話・フラダンス・太極拳・1泊旅行
12月	英会話・フラダンス・太極拳・クリスマス会
1月	英会話・フラダンス・太極拳・成人式
2月	英会話・フラダンス・太極拳・豆まき
3月	英会話・フラダンス・太極拳・ひな祭り

3. 給食業務

給食提供形態	1日1食 毎日提供 食事時間 11:30~13:00 食事提供に当たって、利用者の心身の状況や嗜好に合わせて食事の提供を行うとともに、年齢、障害の特性に応じた適切な栄養量及び内容の食事提供を行うため上記の栄養士を配置し、必要な栄養管理を実施。
給食費	650円

4. 健康管理業務

(1) 医療体制

- ・嘱託医田村ドクター、平尾ドクターによる毎年1~2回の生活習慣予防検診の実施

(2) 健康管理

- ・年2回の健康診断の実施（5月・10月）
- ・看護師・スタッフの連携による健康管理・指導
- ・定時薬・臨時薬の準備と保管・服用管理
- ・栄養士による食事管理

5. 施設設備管理業務

- ・エレベーター（リモート点検毎月・技術員点検4回・法定検査年1回）
- ・防災設備（法定点検年2回）
- ・施設内ワックス（1回）

6. 防災対策

(1) 防火管理者の状況

職名	施設長	氏名	高田 隆一	選任届出年月日	平成 21 年 4 月 1 日
----	-----	----	-------	---------	-----------------

(2) 消防計画の状況

当初届出年月日	平成 14 年 4 月 1 日	最終変更届出年月日	平成 30 年 4 月 24 日
---------	-----------------	-----------	------------------

(3) 消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	29年7月20日	30年1月24日	29年7月20日	年 月 日
消防署への報告	㊟ ・ 無		整備点検記録の有無	
	㊟ ・ 無		㊟ ・ 無	

(4) 所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	有 ・ ㊟
立入検査年月日	年 月 日
改善指示事項の有無	有 ・ ㊟
改善指示事項の内容	
上記の改善内容	

(5) 避難場所の状況

第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	みずとり公園	予定地	伏古北小学校
施設からの距離	10m	施設からの距離	200m
予定地までの所要時間	約1分	予定地までの所要時間	約10分

(6) 非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
29・4・26	避難・消火・通報	29・10・25	避難・消火・通報
29・5・24	避難・消火・通報	29・11・22	避難・消火・通報
29・6・28	避難・消火・通報	29・12・27	避難・消火・通報
29・7・26	避難・消火・通報	30・1・24	避難・消火・通報
29・8・23	避難・消火・通報	30・2・28	避難・消火・通報
29・9・27	避難・消火・通報	30・3・28	避難・消火・通報

(2) その他の防災対策

- ・自動通報装置の設置
- ・セコムとの連携・利用者の防災センター体験による防災意識高揚
- ・AEDの設置
- ・警備日誌の励行
- ・3日分の食料、水の備蓄、災害時拠点としての防災・災害対策用品の備蓄
- ・町内会防災訓練参加
- ・災害時指定避難場所への避難（伏古北小へ（年1回））

7. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サービス管理責任者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
生活支援員	常勤	15	15	15	15	15	15	14	14	14	14	14	14
生活支援員	非常勤	19	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
看護師	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
作業療法士	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
栄養士	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
栄養士	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員	非常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
用務	非常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合計		44	45	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46

8. 実習生・介護等体験の受入

受入学校名		実習期間	人数
実習生	せいとく介護こども福祉専門学校	6月26日～7月14日	1人
	せいとく介護こども福祉専門学校	11月20日～12月5日	1人
	北星学園大学	12月19日～12月23日	1人
	札幌国際大学短期大学部	2月19日～3月2日	1人
	北星学園大学	3月5日～3月9日	1人
	札幌国際大学短期大学部	3月9日～3月16日	1人

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4月1日	むぎのこ	法人研修	5名
4月6日	むぎのこ	朝研修①	3名
4月20日	むぎのこ	朝研修②	3名
5月9日	むぎのこ	朝研修③	3名
5月25日	むぎのこ	朝研修④	2名
6月8日	むぎのこ	朝研修⑤	3名
6月17日	むぎのこ	性教育研修	6名
6月22日	むぎのこ	朝研修⑥	3名
7月13日	むぎのこ	朝研修⑦	3名
7月27日	むぎのこ	朝研修⑧	3名
8月8、9日	むぎのこ	中小屋セミナー	3名
8月24日	むぎのこ	朝研修⑨	3名
9月14日、	むぎのこ	朝研修⑩	3名
10月12日	むぎのこ	朝研修⑪	3名
10月26日	むぎのこ	朝研修⑫	3名
11月9日	むぎのこ	朝研修⑬	3名
11月30日	むぎのこ	トラウマとアタッチメント	1名
12月14日	むぎのこ	朝研修⑭	3名
12月26日	むぎのこ	アンガ-マネージメント	1名
1月25日	むぎのこ	朝研修	3名
2月8日	むぎのこ	朝研修	3名

2月22日	むぎのこ	朝研修	3名
3月8日	むぎのこ	朝研修	3名

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/8～9	堀健一	管理者研修受講候補者の事前検定	1
4/19～21	グローバルメディア	コモンセンスペアレンティング(幼児)管理者養成研修	1
5/24～25	北海道知的障がい福祉協会	全道施設長セミナー	1
6/23	札幌市知的障がい福祉協会	新任支援員研修会	1
6/29～7/1	清水基金	清水基金国内研修	1
7/8～9	北海道ファミリーホーム協議会	北海道ファミリーホーム研究大会	1
7/10	北海道知的障がい福祉協会	地域・相談支援セミナー	1
7/18～20	北海道知的障がい福祉協会	障害者虐待防止・権利擁護指導者養成	1
7/25～27	日本財団	発達障害支援スーパーバイザー養成	1
7/28	札幌市社会福祉業議会	ニューパワー全体セミナー	3
9/16～18	社会福祉法人 はるにれの里	自閉症実践セミナー	1
9/20～21	北海道知的障がい福祉協会	全道知的障がい関係職員研究大会	2
9/30	社会福祉法人 はるにれの里	とことん自閉症支援	2
10/1	社会福祉法人 はるにれの里	社会福祉法人はるにれの里 30周年記念講演会	2
10/2～3	北海道知的障害福祉協会	全道支援研究委員会特別研修会	1
10/16～17	北海道地域ケアマネジメントネットワーク	相談支援従事者研修	1
11/7～9	北海道地域ケアマネジメントネットワーク	北海道サービス管理責任者研修	1
11/7～8	日本知的障害者福祉協会 児童発達支援部会	全国児童発達支援施設運営協議会	2
11/9	札幌市食品衛生協会	ノロウィルス食中毒予防講習会	1
11/15～16	北海道社会福祉協議会	メンタルヘルス研修	1
11/16～17	北海道知的障害福祉協会	日中活動支援部会職員研修会	1
11/23	サポートひろかり	自生症の方のパニック0にする12の方法	1
11/27～ 12/1	日本財団	発達障害支援スーパーバイザー養成研修	1
12/2～3	堀健一	管理者SV研修	1
12/4	北海道社会福祉協会	リスクマネジメント研修	1
12/17	札幌みんなの会	わかりやすい権利条約	1
1/14	北海道知的障がい福祉協会	地域支援部会	1
1/15～16	北海道福祉施設士会	北海道福祉施設士会ブロックセミナー	1
1/19～21	日本知的障害者福祉協会	知的障害援助専門員養成通信教育スクーリング	2
2/11	人権セミナー実行委員会	人権セミナー	1
2/15～16	札幌市防災協会	甲種防災管理新規講習	1
2/19～22	株式会社誌恩	行動援護従事者養成研修	1
2/23	札幌市知的障がい福祉協会	職員研修会	2
3/5～8	株式会社誌恩	行動援護従事者養成研修	1
3/13～15	日本財団	発達障害支援スーパーバイザー養成研修	1
春学期	アライアント国際大学	CSPP	1

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考
		定例	臨時			
支援員会議	毎月第1・3水曜	24回		管理者・サビ管・支援員	16名	
ケース会議	毎月第4水曜	12回		管理者・サビ管・支援員	16名	
各種委員会	各委員会規定日	12回		委員会担当職員	10名	
職員会議	毎月第4水曜日	12回		管理者・サビ管・支援員	16名	
運営会議・各部会議	毎月第2水曜日	11回		管理者・サビ管・支援員	4名	

11. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法
3/19	Yさんの母親より、Yさんが嘔まれたことについて職員からの報告あったが、なぜこのようになったのか詳しく聞きたい。	苦情当日に自宅を訪問し、嘔まれた事、病院受診したことは母には電話で連絡していたが、電話連絡でほぼ説明できたと担当職員が感じ、送迎時の報告が詳しい説明を行わず、謝罪だけになっていたことを謝罪する。今後の改善策として、傷がある場合はすぐ保護者のへの連絡で詳しく説明をおこない、送迎時など2人以上の職員詳しく説明する事で保護者も納得されていた。

12. 評価と展望

利用者支援では、今年度もコモンセンスペアレンティングを中心に据え、全職員がスキルを学びそして実践で実際に使えるように、朝の打ち合わせ等でのスキル練習、またパート職員の勉強会(第2水曜)を行なう事で支援の質を保ちながら利用者の方々との関わりが出来るようになった。引き続き家族会からの要望もあり保護者のCSPも開催、自宅に帰宅してからの保護者の関わりも効果的褒め方、予防教育等を用いる事で参加された保護者の意識も少しずつ変化したのではないだろうか。保護者の方々はどうのように関わっていいか困っている。保護者CSPは困り感や不安を少しでも和らげる一助となっていると感じる。今後も保護者CSPを定期的で開催予定。

チャイルドノートを使用する事で利用者さんとの日々の関わりでどのくらい効果的な褒め方、予防的教育法実践しているかを数値化でき、支援する側がどのように利用者に関わっているかを見える化することが出来た。それにより対応が難しい利用者の方に対し、チームで会議を行ない、どのようにアプローチしていくかを、回数や比率、充足率を見ながら行ない、より具体的な支援に繋げる事ができ、実際に良い方向に向かうことが出来た。利用者や職員がお互いに成長できるきっかけにもなった。

地域支援では、丘珠南町内会の夏祭りに今年も職員が参加。近隣住民宅の除雪要請で利用者さんと除雪を行った。

また非常災害時に備え、毎月の防災訓練、総合避難訓練(年2階)、災害時避難訓練(伏古北小へ避難)、白石防災センター見学等で、防災時の啓蒙に努める事を徹底。

今後も地域の方々や学校、町内会と連携し、より地域に開かれ安心、安全に配慮されたジャンプレッツを目指す。

また、職員一人一人が、自分の役割と責任を全う出来し、利用されるの方々に対して、今必要な支援、そして、将来的にどのようになって欲しいかの支援、短期・長期を見据えた包括的な支援を行なっていく。

ジャンプレッツ(就労移行)

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	7	7	7	8	10	10	10	10	10	10	10	8	8.9
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
豊平区													
計	9	9	9	10	12	12	12	12	12	12	12	10	10.9
前年度	10	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11.7

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	114	122	146	154	128	147	129	149	119	103	88	95	1494
前年度	121	165	144	140	120	146	153	133	118	119	106	133	1598

12. 評価と展望

調理室での作業では、食材の下処理、食器の準備や洗浄業務、調理室の清掃業務などの作業を行

なっている。今年度も利用者さんの生活環境は様々であるため、作業のスキルを磨くだけではなく、子育てについての悩み、不安などの相談や、生活リズムが安定せず通所する事が難しいなどの相談を受けるなど、生活支援、家族支援を必要とされる利用者さんが多い。精神的な問題を抱える方々が多く、なかなか自宅から出る事が出来ない利用者の方もおり、毎日電話連絡する等、また個別に懇談の機会を設けたり、心理士によるカウンセリングを定期的に受けるなど、職員が利用者さんの思いを丁寧に聞く事で悩みや不安の軽減を図れるようできるだけ配慮した。

一般就労に結び付いた利用者さんは2名。2017年に法人内の子ども部門・成人部門で支援をされている。就労後も定期的に連絡、職場訪問などを行なうことでご本人や職場の担当者と連携し職場に定着できるよう支援を継続している。

2017年度は、利用者さんの欠席が多く、利用人数が低下していたため欠席時にご本人に連絡し心身の体調を把握し通所を促したり、より利用者さんに合わせた作業を提供するなどの対策を講じたが、うまくいかなかった部分も多く、利用率は来年度に向けても継続した課題である。

職員がCSPを身につけ基礎的な部分を学び支援に活かしている。職員自らが練習を行ない実践をとおして、肯定的な関わりを増やし、利用者さんが自己肯定感を高められるよう支援している。社会スキルを学び、一般就労しても、その場所で社会スキルを般化できるよう支援していく。

個別に面談を行なっていく事で就労支援だけではなく、生活面の不安や心配事などを相談していく事で、通所の安定を図っていく。

ハーベストガーデン（生活介護）

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
計	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
前年度	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	547	564	646	612	557	573	631	597	570	569	551	645	7062
前年度	489	511	556	527	498	527	536	533	501	514	499	552	6243

17. 評価と展望

地域で当たり前の生活をおこなう。この目標に向けて今年も活動してきた。26名の利用者さんが通い、一人一人にどのような社会スキルが必要か支援計画を立てて活動を行ってきた。社会スキルを学ぶ事で、施設外の活動に挑戦する機会を増やす事が出来た。大きな行事は利用者さん方で話し合い、リーダー、サブリーダーを決めて取り組む事が出来た。自分たちで目標を決めて達成する事で、仲間との買い物や外食を楽しんでいた。グループホームと連携をはかり、同じ支援を行うことで利用者さんの生活が安定してきた。

店舗としては、地域の方々がよく訪れるようになった。利用者さんもフロアで働く方が増えてきた。またランチや子ども食堂を提供する事で地域の方々の憩いの場として定着してきたのではないかと、今後はより多くのお客様が来店されるように職員、パートで協力して接客レベルを上げていく。

2018年度も、豊かな生活とは何かを考え続けていきたいと思う。活動も幅を広げ、地域にもっと出て行けるようにする。マナー化するのではなく何のために必要か、活動を通して社会スキルを身につけていけるよう職員が行動していく。CSPを全職員、パートさんが使えるように今後も勉強していく。

店舗ではランチや子ども食堂などを継続して行い、地域の困っている方々でも入りやすい店舗づくりを目指していく。地域で当たり前に生活していく大前提を目標に、全ての作業、活動に取り組んでいく。

ホワイトハウス（共同生活援助）

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	37	37	37	39	39	39	39	39	39	39	39	39	38.5
北区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0
西区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
豊平区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0
厚別区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
清田区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
計	47	47	47	49	49	49	49	49	49	49	49	49	48.5
前年度	41	41	41	41	41	42	42	42	42	46	46	46	42.6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	1301	1318	1354	1437	1316	1361	1443	1385	1366	1330	1271	1261	16143

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

・2017年度の個別支援計画はジャンプレッツ・ハーベストガーデンと連携をとり、2016年度終了評価で利用者本人、保護者同席のもと面談。それを基に検討会議を行い、個別支援計画を策定。その後利用者、保護者同席のもと2017年度個別支援計画を説明し、同意を得る。(9月に同様に後期個別支援計画を行った。)

(2) 主な日中活動

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	誕生会、カラオケ、ショッピング
5月	誕生会、カラオケ、ショッピング、キャンプ
6月	誕生会、カラオケ、ショッピング
7月	誕生会、カラオケ、ショッピング
8月	誕生会、カラオケ、ショッピング、キャンプ
9月	誕生会、カラオケ、ショッピング
10月	誕生会、カラオケ、ショッピング
11月	誕生会、カラオケ、ショッピング
12月	誕生会、カラオケ、ショッピング
1月	誕生会、カラオケ、ショッピング
2月	誕生会、カラオケ、ショッピング
3月	誕生会、カラオケ、ショッピング

3. 給食提供

- ・1日2食(朝食、夕食)
- ・食事時間 朝食：7:00～9:00
夕食：17:00～19:00
- ・食事提供に当たっては、基本的に支援者が調理、準備をする
- ・利用者の心身の状況及び嗜好を考慮し、上記の時間に食事の提供を行ない、世話人が献立を考える
- ・ハーベストガーデンより夕食の惣菜(月、火、木、金)を購入している時は、その惣菜を確認してバランスの良い副食を考える
- ・調理の時は刃物、お湯、油等に世話人が十分注意し、これを行なう

4. 医療体制

・嘱託医(むぎのこ発達クリニック病院長)、ジャンプレッツ、ハーベストガーデンとの連携により利用者の体調の変化による診察の実施

5. 施設設備管理業務

・防災設備（法定点検年2回）

6. 防災対策

(1) 防火管理者の状況

職名	防火管理責任者	氏名	内山 武人	選任届出年月日	2015年9月
----	---------	----	-------	---------	---------

(2) 消防計画の状況

当初届出年月日	なし	最終変更届出年月日	なし
---------	----	-----------	----

(3) 消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	29年7月28日	30年1月25日	29年7月28日	30年1月25日
消防署への報告	○有 ・ 無		整備点検記録の有無	
			○有 ・ 無	

(4) 所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	○有 ・ 無			
立入検査年月日	29年 7月 28日 他			
改善指示事項の有無	○有 ・ 無			
改善指示事項の内容	特になし			
上記の改善内容	-			

(5) 避難場所の状況

「ホワイトハウス」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	日の丸会館	予定地	栄小学校
施設からの距離	100m	施設からの距離	600m
予定地までの所要時間	徒歩5分	予定地までの所要時間	徒歩15分

「アーク」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	伏古児童会館	予定地	伏古小学校
施設からの距離	100m	施設からの距離	300m
予定地までの所要時間	徒歩5分	予定地までの所要時間	徒歩10分

「マーガレット」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	美香保公園	予定地	美香保小学校
施設からの距離	50m	施設からの距離	500m
予定地までの所要時間	徒歩2分	予定地までの所要時間	徒歩25分

「イーラット」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	ひのまる児童会館	予定地	栄地区センター
施設からの距離	200m	施設からの距離	350m
予定地までの所要時間	徒歩10分	予定地までの所要時間	徒歩15分

「クローバー」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	栄南小学校	予定地	栄南中学校
施設からの距離	400m	施設からの距離	900m
予定地までの所要時間	徒歩20分	予定地までの所要時間	徒歩30分

「ダニエル」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	ひのまる児童会館	予定地	栄地区センター
施設からの距離	300m	施設からの距離	500m
予定地までの所要時間	徒歩10分	予定地までの所要時間	徒歩20分

「オリーブ」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地		予定地	
施設からの距離		施設からの距離	
予定地までの所要時間		予定地までの所要時間	

予定地	日の丸会館	予定地	ひのまる児童会館
施設からの距離	200m	施設からの距離	500m
予定地までの所要時間	徒歩 15分	予定地までの所要時間	徒歩 20分

「アン」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	栄地区センター	予定地	ひのまる児童会館
施設からの距離	150m	施設からの距離	150m
予定地までの所要時間	徒歩 10分	予定地までの所要時間	徒歩 10分

「サンタローザ」第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	日の丸会館	予定地	ひのまる児童会館
施設からの距離	200m	施設からの距離	500m
予定地までの所要時間	徒歩 15分	予定地までの所要時間	徒歩 20分

(6)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
29・4・20	避難・消火・通報・救出・その他	29・10・26	避難・消火・通報・救出・その他
29・5・18	避難・消火・通報・救出・その他	29・11・30	避難・消火・通報・救出・その他
29・6・22	避難・消火・通報・救出・その他	29・12・26	避難・消火・通報・救出・その他
29・7・20	避難・消火・通報・救出・その他	30・1・24	避難・消火・通報・救出・その他
29・8・31	避難・消火・通報・救出・その他	30・2・20	避難・消火・通報・救出・その他
29・9・28	避難・消火・通報・救出・その他	30・3・20	避難・消火・通報・救出・その他

※ホームによって訓練の実施日が異なる事があります

(2) その他の防災対策

- ・住居内外点検、非常持ち出し袋常備、保存水常備

7. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サービス管理責任者	常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
世話人	常勤												
世話人	非常勤	16	16	16	16	16	16	8	8	8	8	8	8
生活支援員	常勤	9	9	9	9	9	1	1	1	1	1	1	1
生活支援員	非常勤	4	4	4	4	4	11	11	11	11	12	12	12
看護師	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
夜間支援員	非常勤	16	15	15	15	15	16	16	15	15	15	14	15

8. 実習生・介護等体験の受入

- ・なし

9. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
3/31~4/1	社会福祉法人麦の子会	法人研修	
5/30	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	11
5/16~17	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	2
6/20	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	11
7/18	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	11
8/22	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	11
9/26	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	11
10/24	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	11
12/4~5	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	5
12/6~7	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	6
1/19~20	社会福祉法人麦の子会	CSP研修	3

1/30～31	社会福祉法人麦の子会	CSP 研修	3
---------	------------	--------	---

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
7/10	北海道知的障がい福祉協会	平成 29 年度地域・相談支援セミナー	1
7/22～23	日本グループホーム学会	第 13 回日本グループホーム学会全国大会	1
8/31～9/1	社会福祉法人はるにれの里	強度行動障がい支援者養成研修(基礎)	1
10/5	北海道知的障がい福祉協会	全道グループホームスタッフ研修会	2
1/10～11	社会福祉法人はるにれの里	強度行動障がい支援者養成研修(基礎)	1
3/12	キャリアバンク株式会社	知的障がい者等雇用促進セミナー	1

10. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
グループホーム会議	毎週月曜	52 回		管理者・サピ管 世話人・生活支援員	12 名	

11. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法
	なし	—

12. 評価と展望

- ・2017 年度はサテライトが 3 箇所新設されて、ホームが 9 箇所、サテライトが 5 箇所の合計 49 名の入居者が地域で暮らしている。
- ・新人職員の育成強化の為に、2017 年度は生活介護事業所に勤務してからグループホームに勤務する体制にした。これにより、利用者の日中活動の様子を把握してグループホームの支援にも生かされた。
- ・ジャンプレッツやハーベストとケース会議などで情報を共有して、支援の意思統一を図り、利用者へ同じ支援を行うことが出来た。
- ・C S P 勉強会を行なう事で支援員のスキルアップを図り、日々効果的な褒め方や予防的教育を用いて利用者の支援に努めてきた。
- ・利用者の自己決定や自己選択を尊重する事を第一に支援を行なっていく。
- ・居宅事務所と連携をして買い物や余暇活動等に行く機会を作っていく。
- ・引き続き、通所と連携をして、バザーやキャンプなど戸外活動においても利用者が楽しく豊かな生活をおくれるように支援していく。

VI 社会的養護部門

ガブリエルホーム

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4 月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
措 置	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
一時保護	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0.5
計	6	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6.5
前年度	6	6	6	6	8	10	8	7	7	6	6	6	6.83

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	180	194	210	217	217	210	217	180	186	186	168	186	2351
前年度	180	186	180	186	198	212	217	210	191	186	168	186	2300

14. 評価と展望

前年度同様6名でスタートした。小学校入学1名進級2名、中学校進級1名、中学校を卒業した男児は、生活介護に通所するべく、行政に働きかけて8月から通所が始まった。

7月には、ファミリーホーム北海道研究大会が当別町ふとみ銘泉で開催され、子どもたちも参加し、中小屋小での活動を楽しんだ。また、道内各地から集まったファミリーホームの子どもたちとも交流出来た。

措置延長の女児は、進路が中々決まらず麦の子でパートとして働き、その後今年の3月に専門学校に行くことになり保育士を目指すことになった。

5月から10月まで長期に渡り一時保護の子どもが入居したため、子ども同士の関係性や発達状態によって配慮する場面が多くCSPを使ってチームで関ったり助けを求める場面も多かった。

次年度は、6名の措置児童でスタートしそれぞれ中学・高校に入学、進級する。7歳から19歳までの幅広い年齢層で、発達段階も違うので児童の状況に合わせて、引き続きCSPを使いながら適切な関わりが出来るようにしていく。居宅介護と移動支援の利用も引き続き利用していく。職員が研修会に積極的に参加し、むぎのこ・学校・児童相談所・クリニック等と連携しながら養育していく。

ベテラルホーム

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
措置	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6.0
一時保護	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0.41
計	7	6	6	6	6	6	7	6	7	7	6	7	6.41
前年度	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6	5.08

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	166	186	180	186	186	180	187	180	206	212	174	186	2229
前年度	150	144	142	155	155	150	150	150	155	155	140	163	1809

14. 評価と展望

2017年度4月より、定員6名になり定員が満たされた。5月に高校生の暴力があり、職員が怪我をしたこともあった。その後他事業所の職員の協力もあり、またCSPで効果的に褒めることやポイント制にすることで、暴力、破壊行動はあったものの徐々に減ってきている。2018年1月以降破壊行動はあったが、暴力はない状態である。引き続き、スキル練習や効果的に褒めることを続けていく。3歳から19歳までの幅広い年齢層で、また、発達段階も違うので児童の状況に合わせて、他事業所に助けを求めながら、引き続きCSPを使いながら適切な関わりが出来るようにして行く。引き続き利用して行く職員が研修会に積極的に参加し、むぎのこ・学校・児童相談所・クリニック等と連携しながら養育して行く。

Ⅶ 医療・地域・相談部門

むぎのこ子ども相談室

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	271	272	272	274	275	276	277	278	278	278	278	281	
北区	96	96	96	96	96	96	97	97	97	97	97	97	
西区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
白石区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
豊平区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
中央区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
措置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	373	374	374	376	377	378	380	381	381	381	381	384	

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計	21	28	34	34	40	37	38	43	32	16	15	82	420

2. 支援業務

(1) サービス等利用計画案、サービス等利用計画の策定

- ・ アセスメントに基づきサービス等利用計画案の作成
- ・ サービス担当者会議に基づき、サービス等利用計画の作成
- ・ 基本相談支援
- ・ アセスメント
- ・ サービス担当者会議の開催
- ・ モニタリングの実施

7. 評価と展望

- ・ 子どもを対象とする、障害児相談支援を中心に行った。
- ・ 新規の受給者証申請に伴う、サービス等利用計画案の依頼のニーズが増えてきた。
 - ・ 受給者証の更新のためのサービス等利用計画案の作成や、担当者会議、本計画の作成を前年度よりも進めることが出来た。
- ・ 出産、パニック等、家庭のニーズに合わせてショートやヘルパーの申請、変更を素早く行うようにした。
- ・ 地域支援や地区のデイサービス、相談支援事業所等と連絡をとり連携しながら、スムーズ様々なサービスに引き継げるように支援を行なった。
- ・ 計画相談の手続きとして、①保護者が区役所に申請に行く、②申請後、計画相談の依頼という流れが保護者の方で理解していない方がいるので、まずは保護者が区役所に申請の手続きを行うことを伝えながら、難しい場合は代理申請等の支援を行なった。
- ・ 地域療育等支援事業と連携し、幼稚園、保育園で発達の子が児童発達支援事業を利用するまでのサポートを行った。
- ・ 家族支援が必要な家庭は、通っている事業所、委託のセーブネス等とも連携しサポートしている。
- ・ 支援が必要な家庭は関係機関で集まり家族支援会議を実施し必要な支援を行なうようにした。

相談室セーブネス

1. 利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	366	373	390	396	408	426	434	441	446	461	475	494	426
北区	58	59	60	62	62	63	64	65	65	65	65	66	63

西区	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
南区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
白石区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
豊平区	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	2
中央区	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
手稲区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	6	2
措置	7	7	7	7	7	7	7	7	7	8	8	9	7
計	454	463	482	490	502	521	530	539	544	560	574	599	521
前年度	265	272	277	288	296	315	321	328	336	339	346	355	312

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	515	499	553	543	544	628	632	635	544	683	740	1036	7552
前年度	271	245	358	387	287	374	487	487	458	416	485	665	4920

2. 支援業務

(1) サービス等利用計画案、サービス等利用計画の策定

- ・アセスメントに基づきサービス等利用計画案を作成。
- ・サービス担当者会議に基づき、サービス等利用計画を作成。

(2) 主な日中活動

- ・基本相談支援
- ・アセスメント
- ・サービス等利用計画案の作成
- ・サービス担当者会議の開催
- ・サービス等利用計画の作成
- ・モニタリングの実施

12. 評価と展望

- ・障がい種別に関係なく、札幌市の障がい児・者又は家族の日常生活の相談、金銭管理、福祉サービス、就労支援、精神的支援に訪問、来所、電話、メールで応じた。
- ・各種福祉サービス申請に関わる援助をし、区役所、児童相談所、教育相談、病院、学校、法律事務所などの同行支援等を行った。
- ・計画相談として、サービス等利用計画の作成をした。
- ・札幌市自立支援協議会、札幌市自立支援協議会東区部会に参加した。障がい有無に関わらず、互いに理解し、共生できる地域を目指すことを目的に研修等を行った。
- ・関係機関との連携で、要保護家庭や保護者に障がいがある家庭、子どもに障がいがある家庭への支援を行った。
- ・地域支援員の委託を受け、保育士さん等と協力し、民生児童委員、福祉協力員の方と一緒に地域に浸透するよう活動した。民生委員からの相談ケースもでてきており、連携することができた。
- ・今後も本人主体の相談を心がけ、人権を尊重した支援を行う。児童発達支援センター、児童相談所、病院、まあち、保健センター、学校等の関係機関と連携し、本人そして家族を大事にする相談室を目指したい。

むぎのこ発達クリニック

1. 利用状況

- ・1年間の受診者数 11,012人 1日平均42.6人
(紹介状：250通 特別児童扶養手当診断書：366通
国民年金診断書(精神障害用)：58通 福祉手当診断書：40通
自立支援意見書：59通 精神通院医療診断書：23通)
- ・インフルエンザ予防接種 829人
- ・定期・任意の予防接種(定期接種：302人 任意接種：3人)

2. 健康管理業務

(1) 医療体制

- ・通常の診療体制が、その月によって生じる体制変更の内容は、むぎのこ掲示板とジャンプレッ
ツに掲示している。その月によって掲示の遅くなる時があったので、前月の終わり頃に貼りだす
ようにしていく。また、クリニックだよりのお知らせ欄には、確実に記載していく。
- ・療育中のけがにおいては、診療を最優先にして即時に対応した。
- ・特定の整形外科とは、今後も協力いただけるよう、日頃の連携を大切にしていた。

(2) 健康管理

- ・職員の健康診断を、早期に済ませれるようスケジュールに沿って確実に受けれる手配を手早く
した。
- ・秋には、法人全体の健康診断状況や結果をチェックして必要時個別に対応した。
- ・各事業所の感染対策、衛生管理等の意識付けをタイミングをみて行った。
- ・市内の感染症や法人内の罹患状況を把握して、できるだけ迅速に対応して蔓延防止に努めた。

3. 施設設備管理業務

- ・セコムに引き続き依頼して、防犯対策を行った。
- ・設備の点検・補修等は、札幌住宅にすぐに対応していただいた。
- ・施設周囲の点検・整備はこまめに行い、近隣とのコミュニケーションの目的としても意識して
行った。

4. 防災対策

(1) 防火管理者の状況

職名	事務員	氏名	田村美智子	選任届出年月日	H25. 2. 1
----	-----	----	-------	---------	-----------

(2) 消防計画の状況

当初届出年月日	H25. 2. 1	最終変更届出年月日	H29. 5. 15
---------	-----------	-----------	------------

(3) 消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	誘導灯、警報設備、消火器		避難器具、非常電源配線、配線	
点検年月日	H29年7月1日	H30年1月25日※	年月日	年月日
消防署への報告	① ・ 無		整備点検記録の有無	
			① ・ 無	

※届け出は7月のみ年1回

(4) 所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	有 ・ ①
立入検査年月日	
改善指示事項の有無	有 ・ ①
改善指示事項の内容	
上記の改善内容	

(5) 避難場所の状況

第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	栄地区センター	予定地	日の丸公園
施設からの距離	100m	施設からの距離	400m
予定地までの所要時間	4分	予定地までの所要時間	10分

(6) 非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
29/4/24	① 避難 ② 消火 ③ 通報 救出・その他	29/10/23	① 避難 ② 消火 ③ 通報 救出・その他
29/5/22	① 避難 ② 消火 ③ 通報 救出・その他	29/11/27	① 避難 ② 消火 ③ 通報 救出・その他
29/6/27	① 避難 ② 消火 ③ 通報 救出・その他	29/12/25	① 避難 ② 消火 ③ 通報 救出・その他
29/7/24	① 避難 ② 消火 ③ 通報 救出・その他	30/1/29	① 避難 ② 消火 ③ 通報 救出・その他
29/8/2	① 避難 ② 消火 ③ 通報 救出・その他	30/2/26	① 避難 ② 消火 ③ 通報 救出・その他
29/9/25	① 避難 ② 消火 ③ 通報 救出・その他	30/3/12	① 避難 ② 消火 ③ 通報 救出・その他

※通報は8月の総合訓練のときのみ119番しました

(7) その他の防災対策

- ・各部屋の上部棚の整理整頓・他
- ・2階スライド式扉の蝶番の清掃・調整

5. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
医師	非常勤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
診察補助者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
診察補助者	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ST/OT/心理療法者	常勤	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
ST/OT/心理療法者	非常勤	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
事務員	非常勤	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
合計		15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15

6. ボランティアの受入

- ・特になし

7. 実習生・介護等体験の受入

むぎのこ実習生に対して、クリニックでの各種療法や親子教室の見学など、クリニックの位置づけを通して、依頼時には随時対応した。

8. 障害者自立支援法による事業の整備

むぎのこ利用児・者の他にも、福祉資源を有効に活用できるよう情報提供と、必要時診断書および意見書の作成・調整・相談を行った。

9. 人事労務・給与制度等(全事業共通)

人事労務管理	異動事項特になし
給与制度	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉職員処遇改善助成金による処遇改善の実施 ・最低賃金改定に伴い時間給を改善 ・みなし労働制を導入
職員福利厚生	<ul style="list-style-type: none"> ・職員福利厚生の充実のため、パートタイム職員も含め、福利厚生センター（ソエルクラブ）への加入を促進した。 ・全職員に対する定期健康診断を実施した。 ・腰痛検査を実施した（直接処遇職員）。

10. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/2,4/14	むぎのこ	法人研修	名

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
6/10.11	北海道作業療法士学会	第48回北海道作業療法士学会	1名
6/30		北海道立旭川肢体不自由児総合療育センター療育研修	3名
8/19～28	日本感覚統合学会	平成29年度感覚統合療法認定講習会Aコース	1名
9/25	北海道臨床心理士会	子ども・家族・地域への心理臨床	2名
9/30	北海道立旭川肢体不自由児総合療育センター	平成29年度障がい児支援体制整備事業発達支援関係職員専門研修	3名
2/7～8	一般社団法人日本聴覚医学会	平成29年度第10回補聴器講習会	1名

11. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
全体会議	月1回	12回	0回	クリニック全職員	7～8名	

12. 財務・事務管理(全事業共通)

情報公開	・各事業所に事業・法人の報告・計画、決算・予算等を開示した。 ・ホームページを全面更新し、情報発信を強化した。 ・後援会と連携し、日常の様子を公開に努めた。
個人情報保護と共有	・電子データを外部メディア等に複写すること等の禁止を徹底した。 ・電子データは専用サーバーに保存し、職員のみVPN接続で共有した。
苦情対応	・苦情処理要綱により、各事業が迅速に対応した。
業務の効率化・コスト削減	・本部配置職員(パートを含む)を増員し、各事業の共通業務を一元管理した。 ・各事業所のパソコンを随時更新・追加し、業務の効率化を図った。
契約の公正・透明性の確保	・利用契約は担当職員によって公正に契約した。 ・経理系契約は入札を含め、経理規程を遵守した。
事務管理の適正化	・法人職員と各事業所事務担当職員との連携を図った。
第三者評価	・第三者評価は実施していない。

13. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法
月		

14. その他特記事項

法人内の医療事業としての意識をもって、むぎの年間スケジュールにより沿った連携が取れたと思う。今後は、より具体的な内容・意識を持って連携が取れればと思う。

15. 評価と展望

(1) 心理療法・査定 (アセスメント)

平成29(2017)年度 心理支援業務報告 臨床心理士 吉村 実保

H29(2017)年度の心理士の体制は、非常勤臨床心理士：秋田有紀子・加藤香子・吉村実保 非常勤心理士：水上真理子の4名が勤務した。

① 個人心理療法

心理療法の方法は、各セラピストの専門性により、実際の行動の改善を目的とするアプローチ(SST、ロールプレイ、認知行動療法/秋田)、心の中の対人関係の改善を目的とするアプローチ(精神分析的な心理療法、来談者中心療法、プレイセラピー/吉村)、トラウマに焦点をあてた対症療法を目的としたアプローチ(水上)など様々あるが、セラピストは個々のクライアントのニーズや問題を十分考慮した上で、そのクライアントに適した支援を行った。

秋田は、7名に実施した。内容は、認知行動療法1名、遊戯療法3名、会話の練習(緘黙児)1名、カウンセリング2名だった。

水上は、9名に実施した。内容は、力動的な心理療法や身体心理療法だった。

吉村は、11名に実施した。内容は、SSTを含めた支持的遊戯療法だった。

合計27ケース

② 心理査定

各種(発達・知能・心理)検査は、子ども【新版K式発達検査、WISC-III/IV、WPPSI、田中ビネー知能検査、描画をはじめとした心理検査 etc】、成人【WAIS-R、田中ビネー知能検査、ロールシャッハ・テスト etc】を実施した。

a) 新版K式発達検査

秋田(31)、吉村(178)、クリニック支援(87)

合計 296 ケース

b) 田中ビネー知能検査(全訂版、V)

秋田（28）、加藤（32）、吉村（150）、クリニック支援（19）	合計	229	ケース
c)ウエクスラー式知能検査（WISC-Ⅲ/Ⅳ・WPPSI・WAIS-R）			
秋田（18）、加藤（12）、水上（3）、吉村（70）、クリニック支援（5）	合計	108	ケース
d)K-ABC			
吉村（4）	合計	4	ケース
e) 質問紙法による心理検査（MMPI, YG, TEG, MAS etc）			
秋田（6）、水上（1）、吉村（4）	合計	11	ケース
f) 投映法による心理検査（HTP, PFスタディ, 風景構成法, バウム, ロールシャッハ etc）			
秋田（15）、水上（1）、吉村（6）	合計	22	ケース
g) 神経心理学的検査（フロスティグ視知覚発達検査）			
秋田（12）、吉村（13）	合計	25	ケース
h) 発達心理学的検査（グッドイナフ人物画知能検査）			
秋田（24）、吉村（26）	合計	50	ケース

③ 集団精神療法

方法はそれぞれの集団の特徴を考慮し、SST、ロールプレイ等の認知行動療法や集団プレイセラピーを組み合わせて実施した。

今年度実施した小集団は、合計10グループだった（隔週1回40～50分）。

センターぞう組：4グループ（5人／秋田，5人／加藤，5人／水上，6人／吉村）

事業ライラック組：2グループ（6人／秋田，7人／吉村）

事業シーランチ組：2グループ（8人／加藤，7人／吉村）

事業ヨシア組：2グループ（7人／秋田，7人／水上）

(2) 障害児・者リハビリテーション

1. 平成29年度言語聴覚業務報告

言語聴覚士 矢田 麻貴

I. “言語聴覚士業務計画”に基づく実施報告

① 言語評価

医師の指示の下、コミュニケーションに関する客観的ならびに主観的評価を実施し、親への説明、相談を行った。評価後は必要に応じて指導へと移行した。

② 言語指導

29年度末時点での言語聴覚療法対象児の総数は85名（むぎのこ利用児・外来含む）であった。

子どもの状態に応じて、40分間の個別指導を主とした言語指導、構音（発音）指導、AAC（拡大・代替コミュニケーション）指導、摂食指導を行った。定期的に、医師を交えて親への内容・経過報告、方針再検討等の機会を設けた。

※3月で終結また新規開始予定児も含む。

③ 摂食指導

従事した対象児は1名。内容は一部評価および食事介助が中心であった。

また必要に応じて嚥下機能向上を目的に間接訓練や介助者へのアドバイスを実施した。

2. 平成29年度作業療法士業務報告

作業療法士 大坪光保 松田京 松田幸恵

運動機能面（粗大動作・巧緻動作・協調運動など）・行動面・情緒面・認知面等に発達上の困難さがある子どもについて、医師の指示のもと評価し、1回40分～60分、週1回または2週間に1回、月1回の設定で作業療法（個別訓練）を実施した。

大坪 86 例 松田京 55 例 松田幸 21 例

(2) 親子教室

午前：週2回、午後：週3回、未就園児から市内の保育園・幼稚園に通っている未就学児までを対象とし、親子教室（クリニック母子支援事業）を、医師、心理士、作業療法士、看護師とともに実施した。

(3) むぎのこ児童発達支援センター、児童発達支援事業むぎのこの連携

・月1回、落合作業療法士の来園訓練に合わせ、パンジー組の訓練対象児への関わり方を指導いただ

き、都度、パンジー組通園児を中心に、センター・事業それぞれの通園児らの運動機能・生活技能・認知機能の獲得、維持、向上を図るためそれぞれ個別に関わり、直接的または間接的に発達支援を行った。

・毎週金曜日に武田先生とともにプレイセラピーの実施及び各クラスに入り、子どもへの関わりについてのご指導・ご示唆をいただいた。また、法人に所属する児・生徒・者の発達・知能検査の結果を武田先生を通じて提供した。

(4) クリニック他職種との連携

医師、心理士、言語聴覚士、作業療法士、看護師と、都度、対象者についての報告・相談を行い、毎月のクリニック全体会議の中で情報交換をし他職種とのより円滑な業務連携が図られるよう努めた。

札幌市障がい児等療育支援事業

1. 利用状況

・訪問療育－9件、外来療育－0件、施設支援－246件、 計 255件

2. 支援業務

実施地域：札幌市全域、
 内 容：訪問療育－家庭を訪問し、生活や育児に繋がる相談や訓練
 外来療育－外来の方法で、生活や育児に繋がる相談や訓練
 施設支援－関係機関に対して、療育に関する専門的技術支援や情報提供

3. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
心理士	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
児童指導員	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

4. 評価と展望

- ・札幌市内全域を対象に訪問療育、施設支援を実施した。
- ・相談者、施設のニーズに合わせ、細かく専門支援を実施した。
- ・支援ニーズに対し、専任職員が不足し、増員が必要である。

当別町子ども発達支援センター発達支援専門職員派遣業務

1. 利用状況

(1) 支援回数

(単位 人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	1	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	1	7
前年度	1	1	1	1	0	0	1	0	1	1	0	1	9

2. 支援業務

(1) 業務

- ・当別町子ども発達支援センターにおける、発達評価および専門指導
- ・当別町子ども発達支援センターの指導業務における指導及びスーパーバイズ

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
心理士	常勤	1	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	1

3. 評価と展望

- ・当別町子ども発達支援センターに対し発達評価および専門指導を積極的に実施した。

- ・当別町子ども発達支援センターのニーズに合わせ、細かく、柔軟に専門支援を実施した。
- ・当別町子ども発達支援センター関係者（保護者、児童館職員）への講義を実施した。

当別町職員指導業務

1. 利用状況

非該当

2. 支援業務

(1) 業務

- ・当別町子ども発達支援センターにおける、児童発達支援管理責任者に係る業務。
- ・当別町子ども発達支援センターにおける、相談支援専門員に係る業務。
- ・当別町子ども発達支援センターにおける、地域の児童の発達支援に必要な業務。

3. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者													
児童発達支援管理責任者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
相談支援専門員	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

4. 評価と展望

- ・利用児童についての解決すべき課題を把握し、心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえ、日常生活等の目標及び、当該目標を達するため具体的な支援内容等の個別支援計画の作成を行った。
- ・相談者の意志を尊重し、置かれている状況や環境に配慮の上、児童の能力や特性を踏まえて、地域において自立した生活ができるよう相談支援計画を作成し、関係機関との連携等を積極的に行った。
- ・乳幼児健診及び各関係機関でのケース会議に積極的に参加し、電話等での発達や子育てに関する相談やアドバイスをを行った。